

# 平成23年度化学物質管理目標等報告の概要〔資料編〕

## 1 市町村別・業種別の報告状況

### (1) 市町村別の報告状況

(kg/年)

市町村名	報告事業所数	排出量		移動量		使用量	
		H22 排出量	H23 削減目標	H22 移動量	H23 削減目標	H22 使用量	H23 削減目標
横須賀市	56	529,680	357	351,262	81	32,119,134	435
平塚市	111	835,512	569	1,962,066	4	108,704,454	353,881
鎌倉市	21	3,252	159	15,401	0	5,277,235	49
藤沢市	71	201,593	0	35,811	100	21,716,434	3,247
小田原市	50	134,599	9,600	1,476,165	43	14,964,928	5,919
茅ヶ崎市	32	200,432	588	619,973	260	15,196,633	809
逗子市	2	2	0	0	0	0	0
三浦市	5	7,364	0	1,530	0	1,266,829	3,825
秦野市	48	268,893	0	150,770	0	13,097,559	9,033
厚木市	74	143,593	3,708	59,376	809	27,105,741	501
大和市	48	134,116	1,953	28,917	1	12,635,108	2,660
伊勢原市	33	59,059	100	66,636	118	7,826,366	827
海老名市	27	96,621	448	46,649	145	10,618,736	0
座間市	24	31,115	6	38,810	0	6,017,098	280
南足柄市	10	117,581	500	111,487	0	1,240,402	0
綾瀬市	35	304,192	0	31,259	0	17,977,950	0
葉山町	5	518	0	0	0	2,257,862	0
寒川町	22	64,577	0	222,564	0	6,299,014	5,241
大磯町	5	698	0	3,800	0	1,530,238	0
二宮町	1	0	0	0	0	0	0
中井町	5	376	0	2,900	0	1,063,450	0
大井町	6	4,758	0	0	0	2,210,376	0
松田町	1	2,000	0	0	0	2,038	2,446
山北町	6	105	0	2,830	0	680,060	8
開成町	5	556,621	0	12,553	0	620,452	0
箱根町	10	1,430	0	0	0	878,464	0
真鶴町	—	—	—	—	—	—	—
湯河原町	1	780	0	0	0	0	0
愛川町	26	29,931	2,450	23,738	785	4,744,149	3,408
清川村	1	0	0	0	0	0	0
合計	741	3,729,398	20,438	5,264,496	2,346	316,050,710	392,568

※1 表中の記号は次のとおりです。

「—」 …… 化管法及び条例の対象事業所が存在しないことを示しています。  
 「▲」 …… 負の数字であることを示しています。

※2 排出量及び移動量は化管法の届出に、使用量は条例の報告に基づいています。

※3 排出量(移動量・使用量)の値は、各事業所から報告されたデータ(ダイオキシン類は除く)を市町村ごとに合計したものを小数点第一位で四捨五入し、整数表示しています。

合計については、全ての事業所の報告データを合計したものを小数点第一位で四捨五入し、整数表示していますので、排出量(移動量・使用量)の各欄を縦方向に合計した数値と計の数値は必ずしも一致していません。

### (2) 業種別の報告状況

(kg/年)

業種名	報告事業所数	排出量		移動量		使用量	
		H22 排出量	H23 削減目標	H22 移動量	H23 削減目標	H22 使用量	H23 削減目標
食料品製造業	7	2,345	1,400	1	0	224,198	0
飲料・たばこ・飼料製造業	1	0	0	2,900	0	93,367	0
家具・装備品製造業	2	104,940	0	30,722	450	155,121	0
パルプ・紙・紙加工品製造業	6	46,022	0	6,867	0	75,391	0
出版・印刷・同関連産業	7	66,700	1,600	53,170	0	132,030	5,811
化学工業	84	347,374	9,437	3,777,213	400	77,823,831	288,020
石油製品・石炭製品製造業	4	635	0	8,926	0	60,038	0
プラスチック製品製造業	24	36,843	4	269,183	772	57,147,738	6,100
ゴム製品製造業	5	571,761	370	36,630	0	2,781,279	63,315
窯業・土石製品製造業	8	9,935	0	11,800	0	2,009,363	0
鉄鋼業	2	0	0	4,354	0	600,571	0
非鉄金属製造業	20	92,027	2,450	514,111	260	3,430,606	0
金属製品製造業	33	219,267	354	51,248	53	7,871,813	11,016
一般機械器具製造業	21	106,864	164	30,536	0	229,482	471
電気機械器具製造業	28	100,187	0	127,467	0	1,852,864	982
輸送用機械器具製造業	62	1,871,278	4,545	234,593	411	17,167,072	14,248
精密機械器具製造業	2	2,000	0	0	0	2,869	2,454
武器製造業	1	0	0	0	0	1,279	0
その他の製造業	4	20,770	0	15,060	0	83,280	0
電気業	1	0	0	0	0	8,917	0
ガス業	0	0	0	0	0	0	0
熱供給業	2	0	0	0	0	5,310	0
下水道業	24	71,215	0	0	0	10	0
石油卸売業	6	68	0	0	0	511,779	0
燃料小売業	281	44,963	0	0	0	143,517,237	0
洗濯業	7	68	29	13,020	0	28,419	121
自動車整備業	38	10,406	85	1,500	0	85,510	32
機械修理業	1	1,200	0	200	0	1,200	0
商品検査業	1	0	0	1,230	0	4,784	0
一般廃棄物処理業	31	152	0	9,800	0	1,406	0
産業廃棄物処分業	5	0	0	0	0	17,269	0
医療業	2	0	0	4,700	0	5,450	0
高等教育機関	3	1,740	0	4,700	0	6,044	0
自然科学研究所	18	639	0	54,565	0	115,183	0
合計	741	3,729,398	20,438	5,264,496	2,346	316,050,710	392,568

※1 表中の記号は次のとおりです。

「—」 …… 化管法及び条例の対象事業所が存在しないことを示しています。  
 「▲」 …… 負の数字であることを示しています。

※2 排出量及び移動量は化管法の届出に、使用量は条例の報告に基づいています。

※3 排出量(移動量・使用量)の値は、各事業所から報告されたデータ(ダイオキシン類は除く)を市町村ごとに合計したものを小数点第一位で四捨五入し、整数表示しています。

合計については、全ての事業所の報告データを合計したものを小数点第一位で四捨五入し、整数表示していますので、排出量(移動量・使用量)の各欄を縦方向に合計した数値と計の数値は必ずしも一致していません。

## 2 主要業種（製造業に限る）別の状況【平成22年度届出排出量上位5業種】

### (1) 輸送用機械器具製造業（排出量第1位）

#### ア 排出量別

平成23年度の条例（化管法の届出対象外の事業所を除く。）の報告事業所は59事業所であり、排出量別の事業所数は図1-1のとおりでした。排出量上位3事業所で、当該業種の排出量全体の56.2%を占めていました。

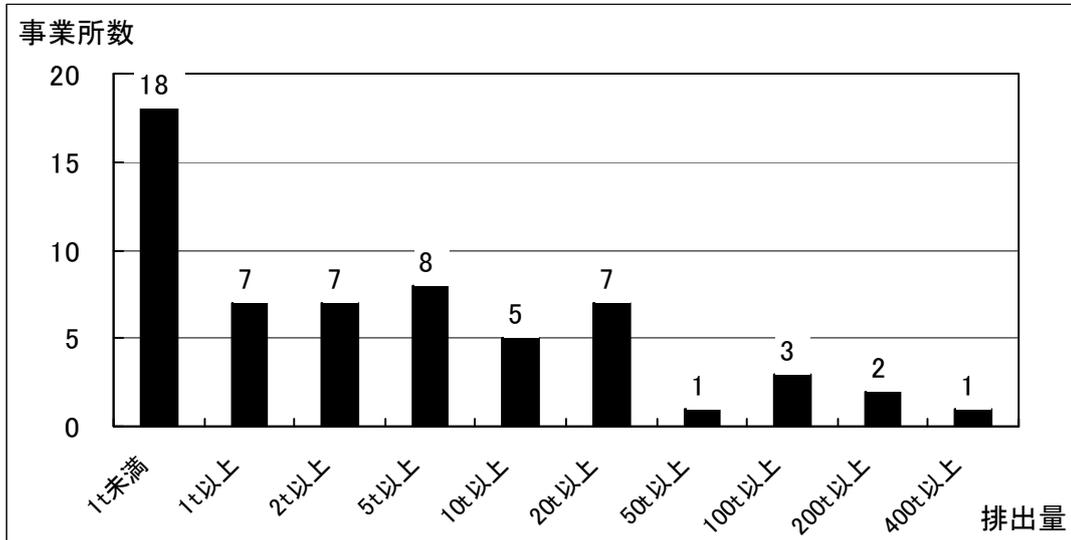


図1-1 排出量別事業所数

#### イ 当該業種が占める割合

輸送用機械器具製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の排出量の50.2%を、管理目標（排出量削減目標）の22.2%を占めていました（図1-2、3）。

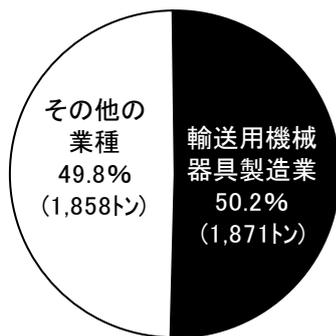


図1-2 排出量  
(平成22年度)

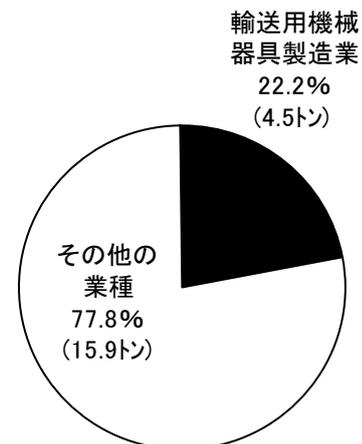


図1-3 排出量削減目標  
(平成23年度)

#### ウ 当該業種の管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（排出量削減目標）は4.5トンで、平成22年度排出量1,871トンの0.24%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度に届出のあった物質数は18物質で、物質別の排出量は図1-4のとおりでした。排出量上位3物質で、当該業種の排出量全体の95.8%を占めていました。

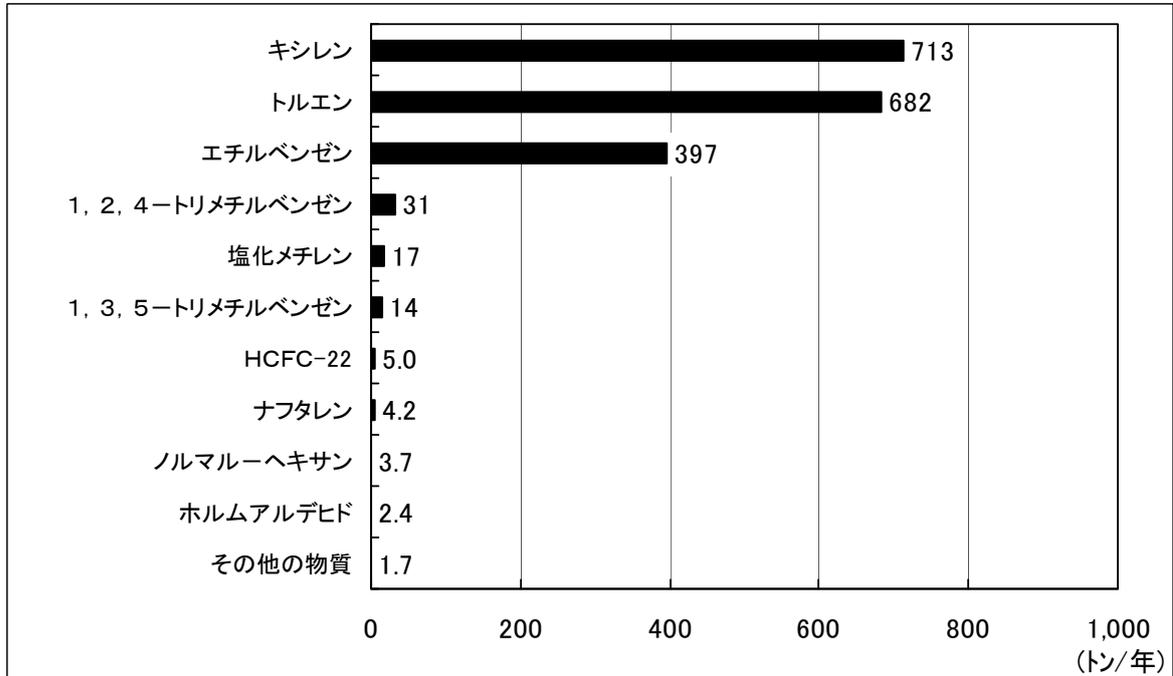


図1-4 物質別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図1-5のとおりです。削減目標上位3物質で、当該業種の削減目標全体の97.2%を占めています。

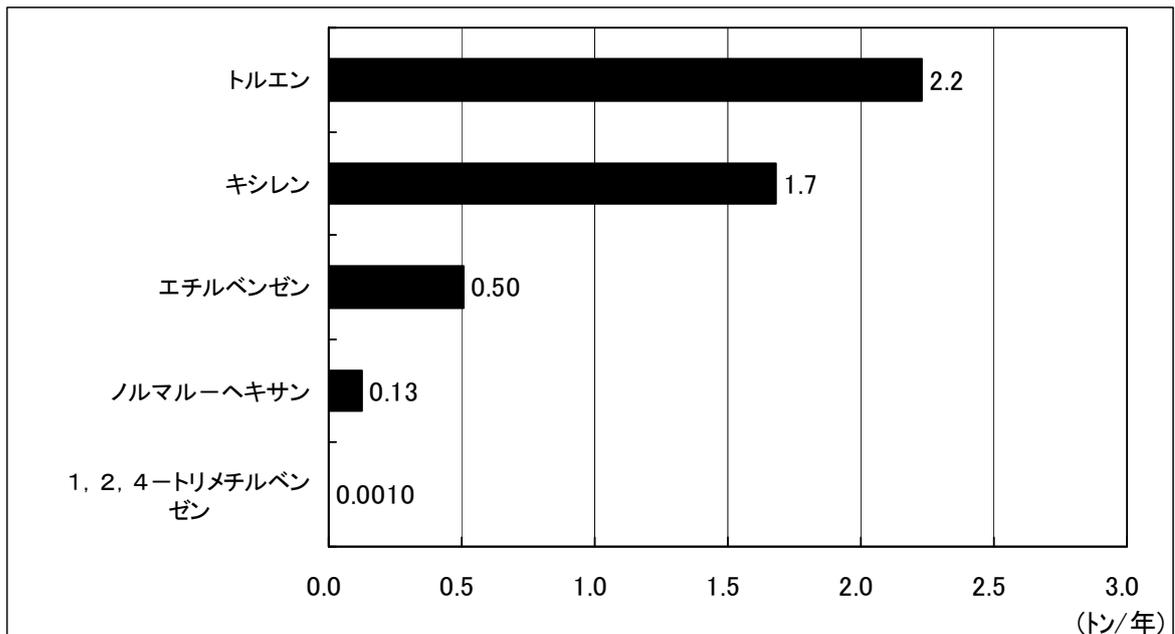


図1-5 物質別管理目標（排出量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度の用途別の排出量は、図1-6のとおりでした。「溶剤・塗料など」が、当該業種の排出量全体の80.8%を占めていました。

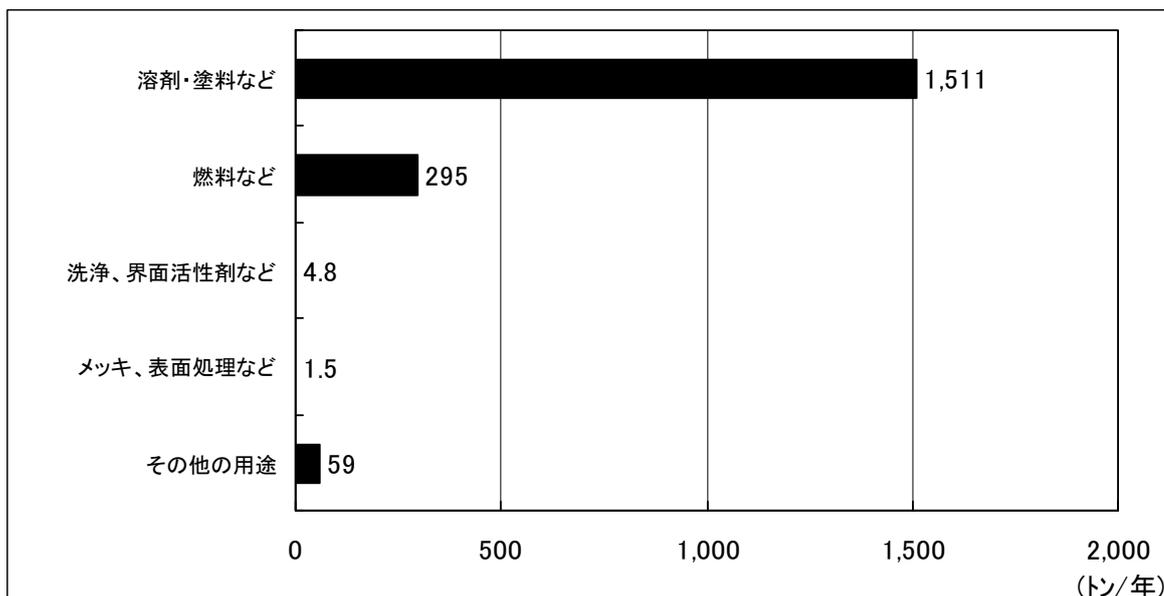


図1-6 用途別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図1-7のとおりです。「溶剤・塗料など」が、当該業種の削減目標全体の88.0%を占めています。

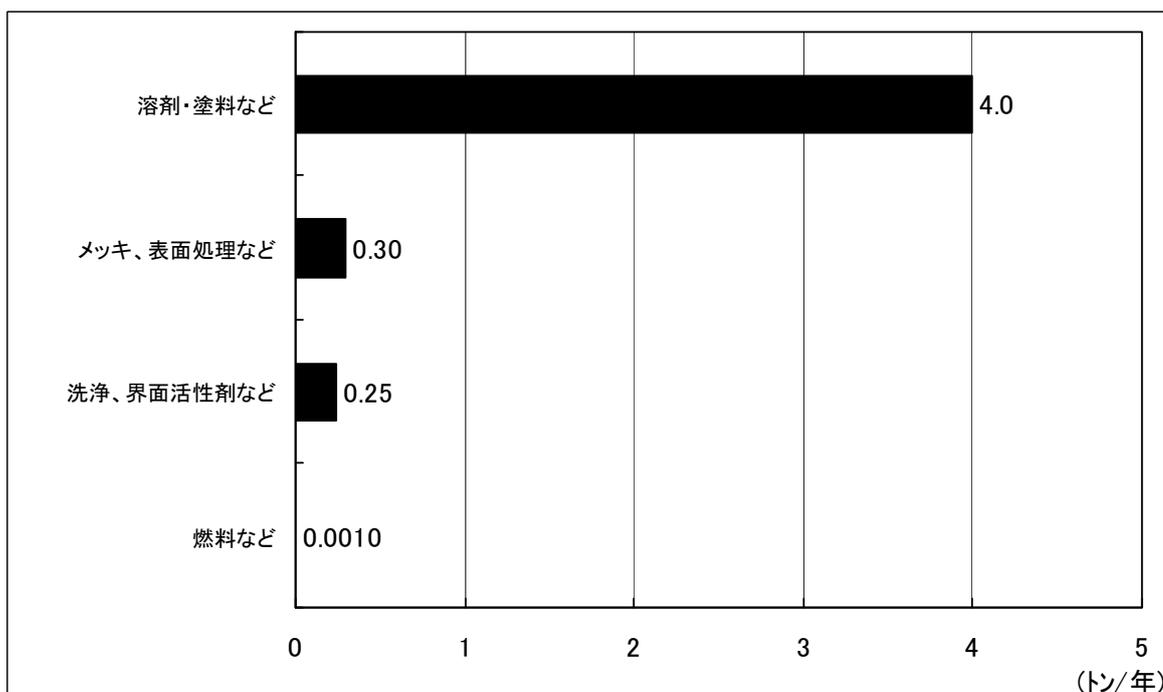


図1-7 用途別管理目標（排出量削減目標）

## (2) ゴム製品製造業（排出量第2位）

### ア 排出量別

平成23年度の条例（化管法の届出対象外の事業所を除く。）の報告事業所は5事業所で、排出量別の事業所数は図2-1のとおりでした。排出量上位1事業所で、当該業種の排出量全体の97.3%を占めていました。

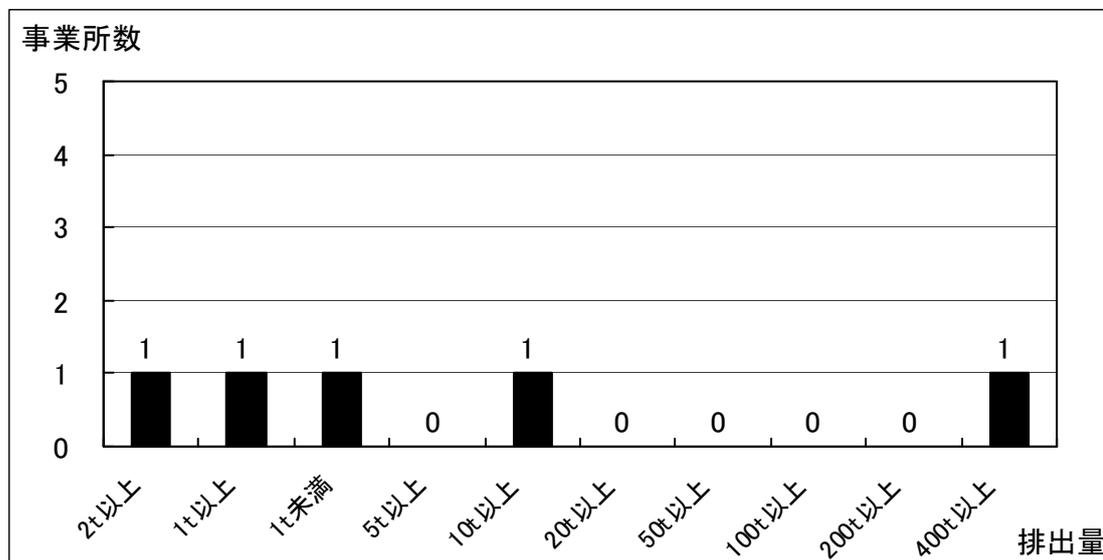


図2-1 排出量別事業所数

### イ 当該業種が占める割合

ゴム製品製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の排出量の15.3%を、管理目標（排出量削減目標）の1.8%を占めていました（図2-2、3）。

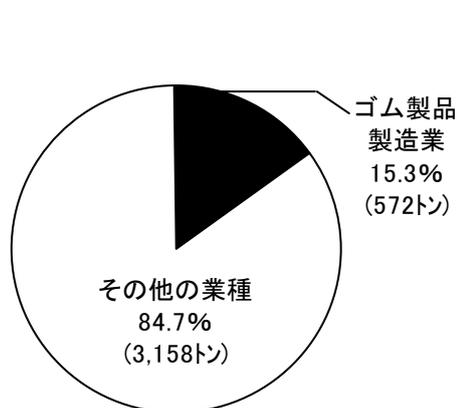


図2-2 排出量  
(平成22年度)

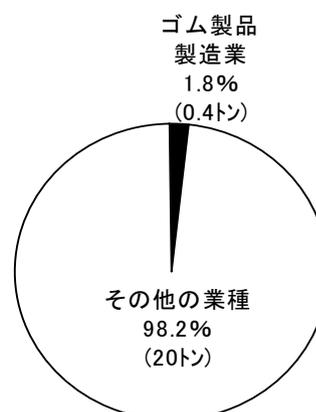


図2-3 排出量削減目標  
(平成23年度)

### ウ 当該業種の管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（排出量削減目標）は0.4トンで、平成22年度排出量572トンの0.070%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度に届出のあった物質数は7物質で、物質別の排出量は図2-4のとおりでした。排出量の最も多いトルエンが、当該業種の排出量全体の92.4%を占めていました。

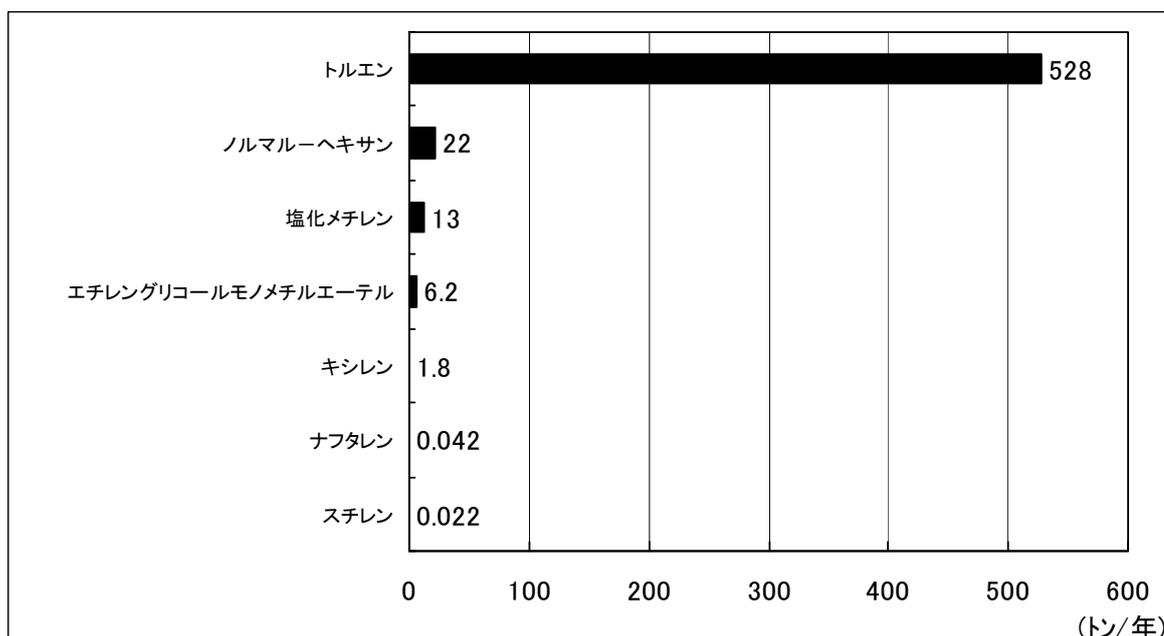


図2-4 物質別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図2-5のとおりです。当該業種の削減目標はトルエンが100%を占めています。

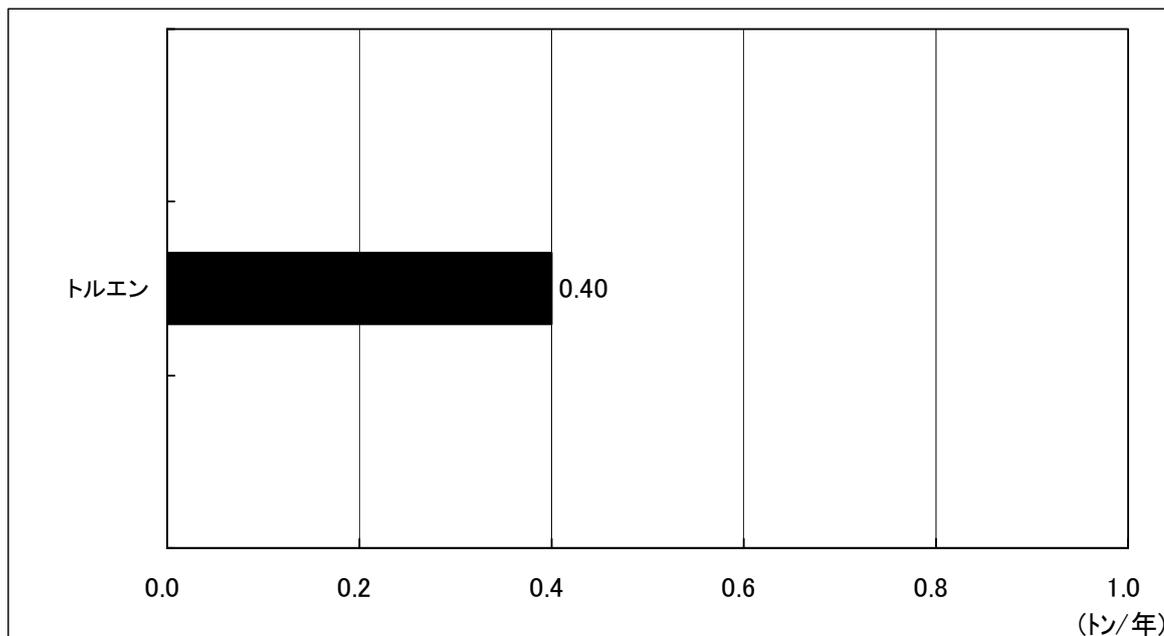


図2-5 物質別管理目標（排出量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度の用途別の排出量は、図2-6のとおりでした。「溶剤・塗料など」が、当該業種の排出量全体の97.7%を占めていました。

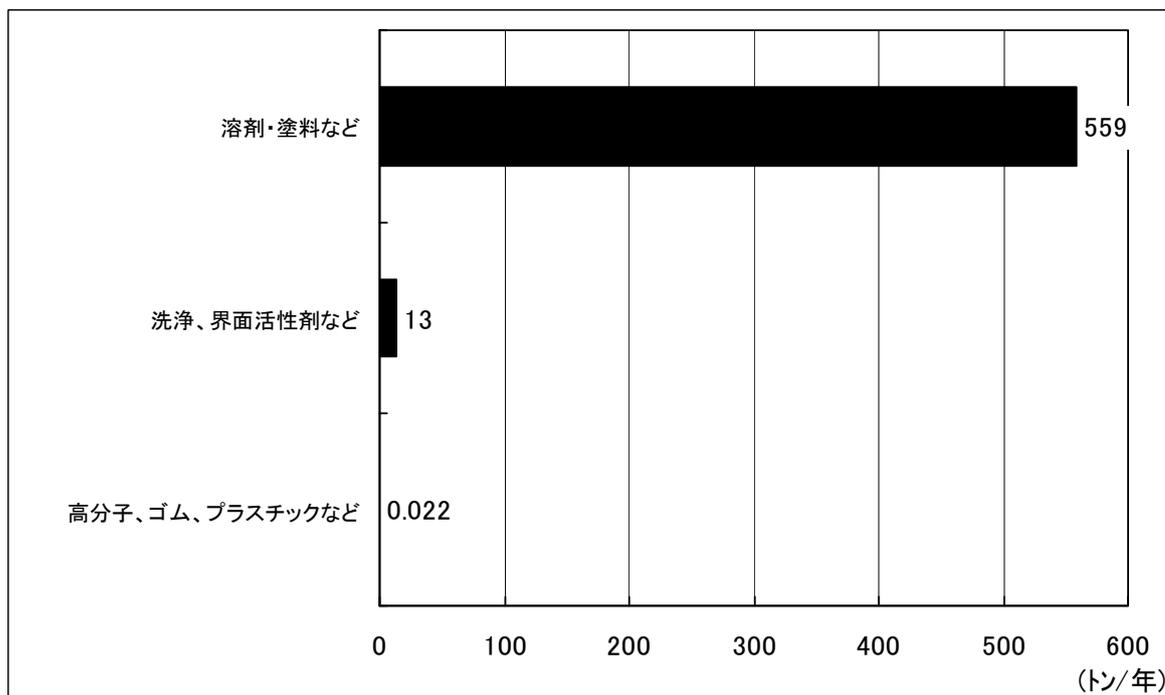


図2-6 用途別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図2-7のとおりです。「溶剤・塗料など」が、当該業種の削減目標の100%を占めています。

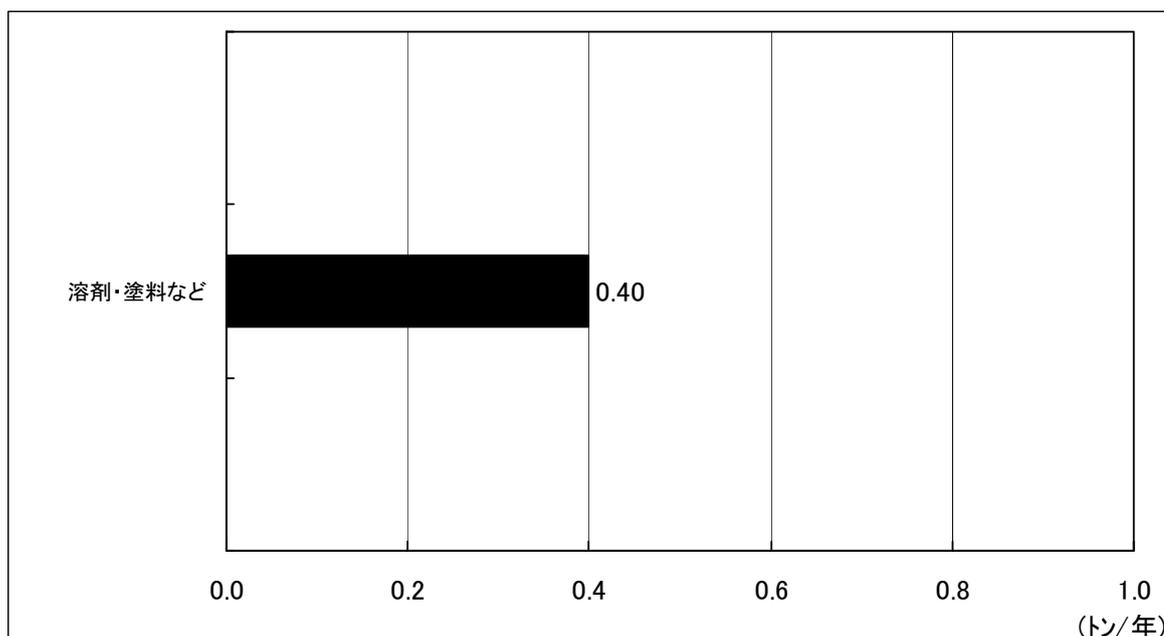


図2-7 用途別管理目標（排出量削減目標）

### (3) 化学工業（排出量第3位）

#### ア 排出量別

平成23年度の条例（化管法の届出対象外の事業所を除く。）の報告事業所は82事業所で、排出量別の事業所数は図3-1のとおりでした。排出量上位3事業所で、当該業種の排出量全体の54.8%を占めていました。

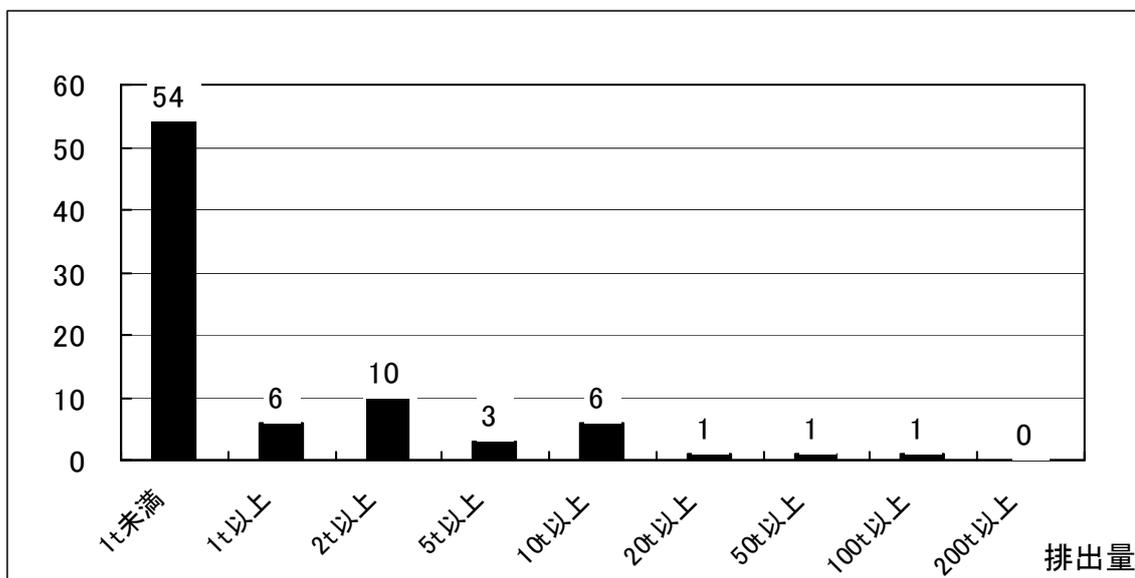


図3-1 排出量別事業所数

#### イ 当該業種が占める割合

化学工業は、条例に基づく報告を行った全事業所の排出量の9.3%を、管理目標（排出量削減目標）の46.2%を占めていました（図3-2、3）。

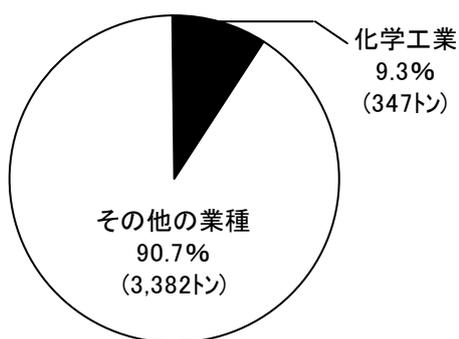


図3-2 排出量  
(平成22年度)

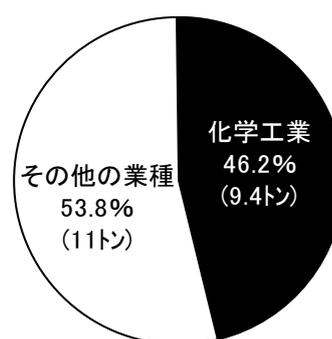


図3-3 排出量削減目標  
(平成23年度)

#### ウ 当該業種の管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（排出量削減目標）は9.4トンで、平成22年度排出量347トンの2.7%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度に届出のあった物質数は67物質で、物質別の排出量は図3-4のとおりでした。排出量上位3物質で、当該業種の排出量全体の70.9%を占めていました。

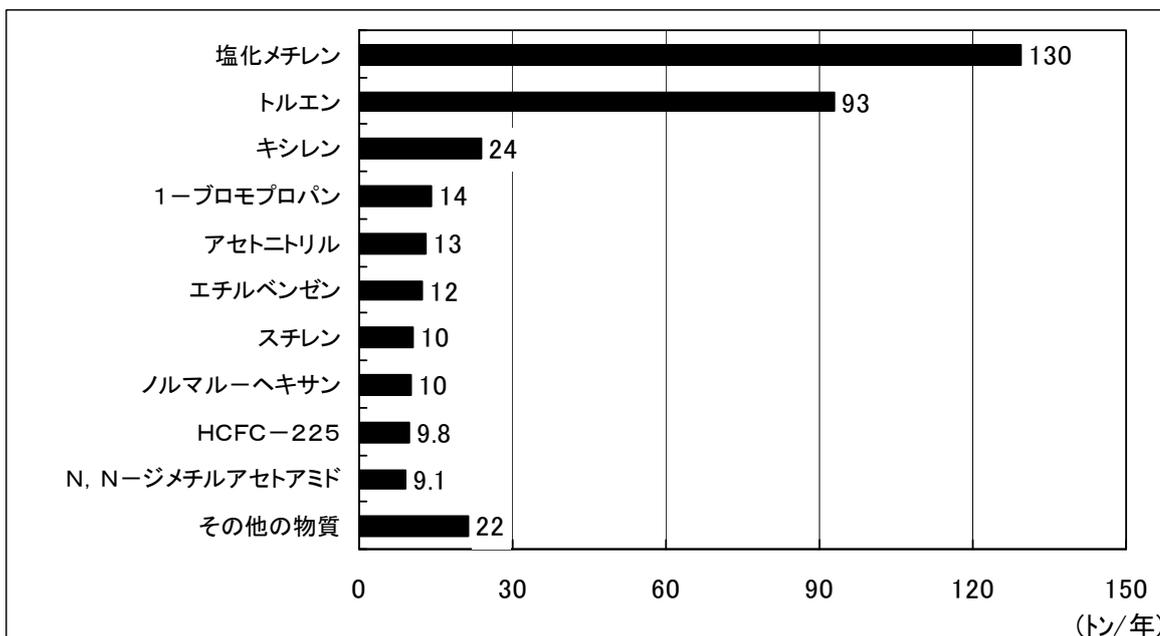


図3-4 物質別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図3-5のとおりです。最も削減目標の多いトルエンは、当該業種の削減目標全体の87.5%を占めています。

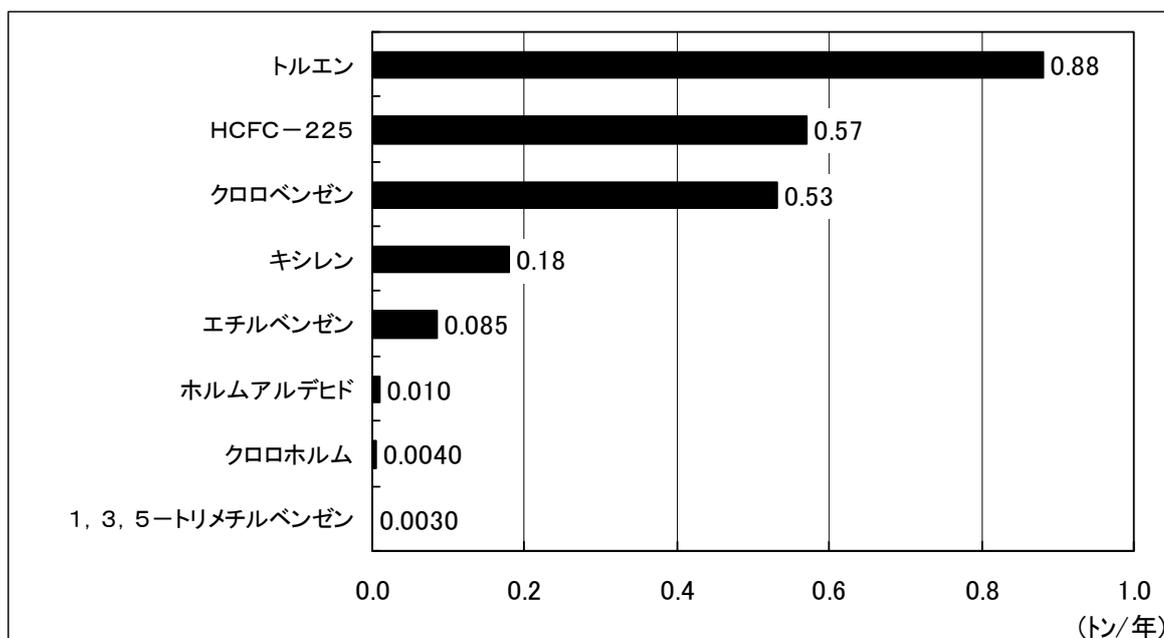


図3-5 物質別管理目標（排出量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度の用途別の排出量は、図3-6のとおりでした。「溶剤・塗料など」が、当該業種の排出量の65.6%を占めていました。

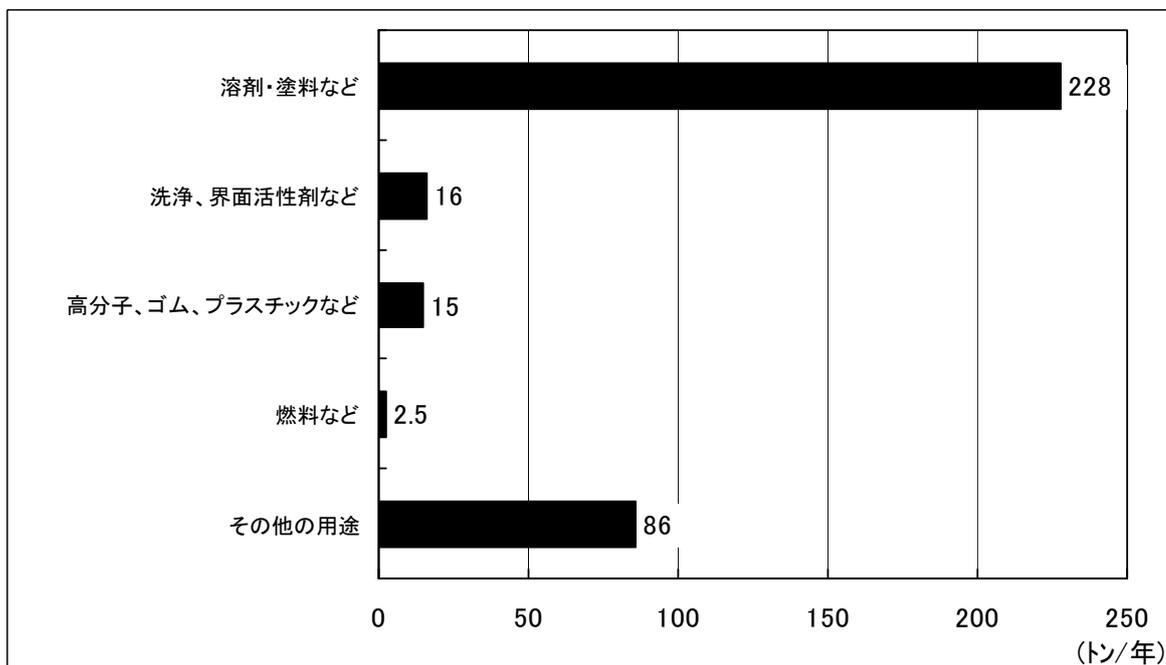


図3-6 用途別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図3-7のとおりです。「溶剤・塗料など」が、当該業種の削減目標全体の99.7%を占めています。

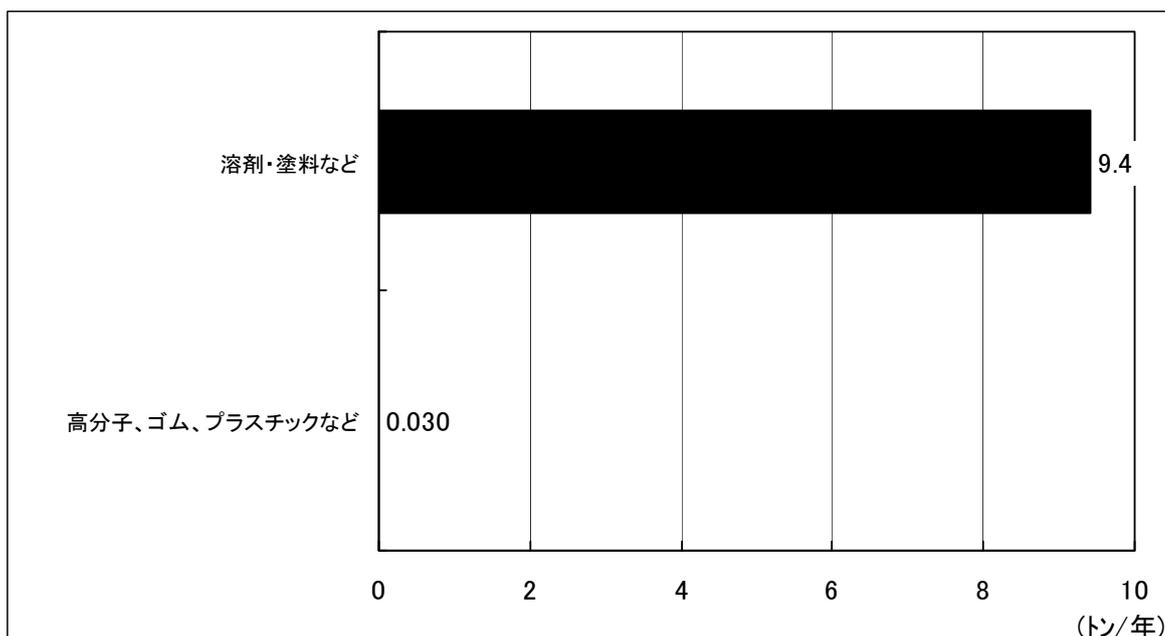


図3-7 用途別管理目標（排出量削減目標）

(4) 金属製品製造業（排出量第4位）

ア 排出量別

平成23年度の条例（化管法の届出対象外の事業所を除く。）の報告事業所は29事業所で、排出量別の事業所数は図4-1のとおりでした。排出量上位3事業所で、当該業種の排出量全体の64.0%を占めていました。

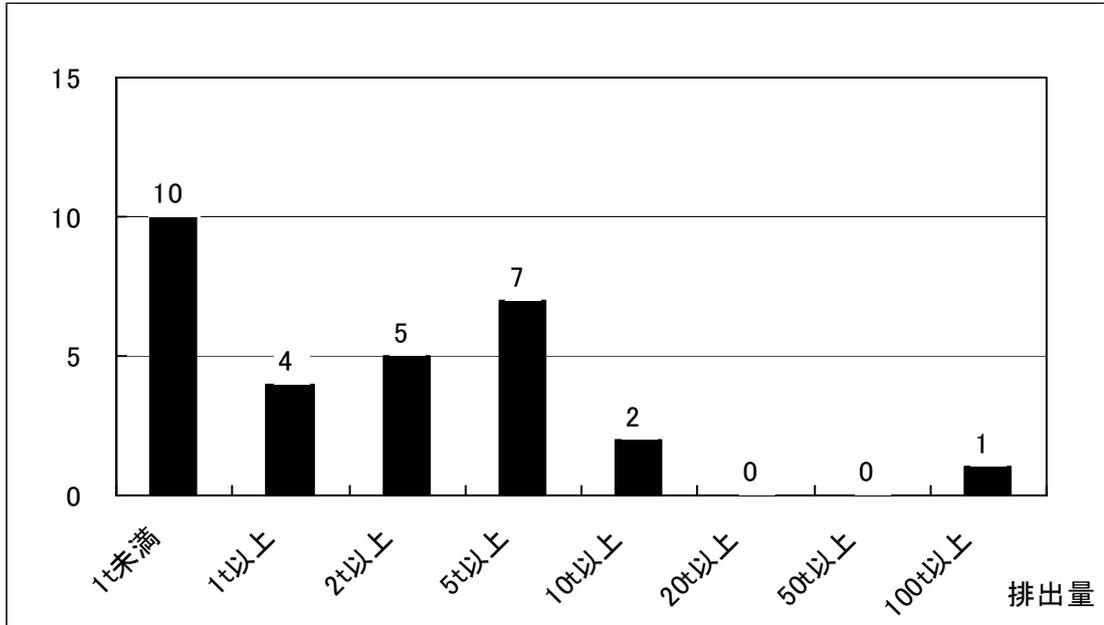


図4-1 排出量別事業所数

イ 当該業種が占める割合

金属製品製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の排出量の5.9%を、管理目標（排出量削減目標）の1.7%を占めていました（図4-2、3）。

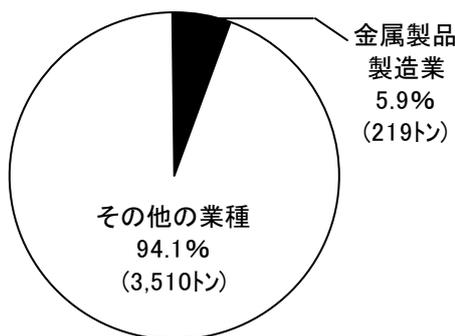


図4-2 排出量  
(平成22年度)

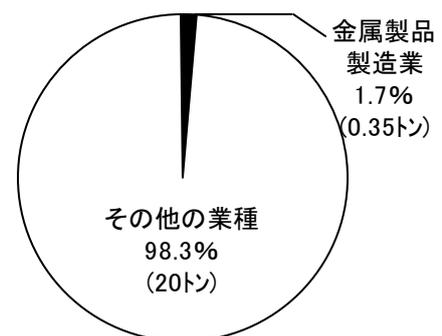


図4-3 排出量削減目標  
(平成23年度)

ウ 当該業種の管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（排出量削減目標）は0.35トンで、平成22年度排出量219トンの0.16%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度に届出のあった物質数は14物質で、物質別の排出量は図4-4のとおりでした。排出量上位3物質で、当該業種の排出量全体の83.2%を占めていました。

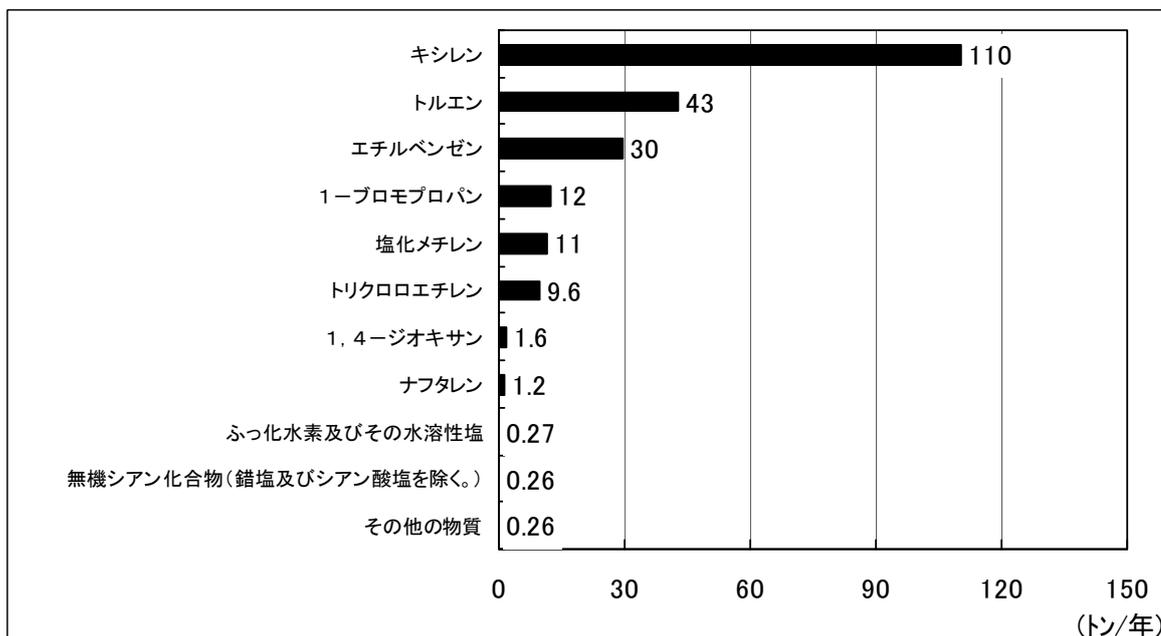


図4-4 物質別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図4-5のとおりです。最も目標の大きい1-ブロモプロパンで、当該業種の削減目標全体の70.6%を占めています。

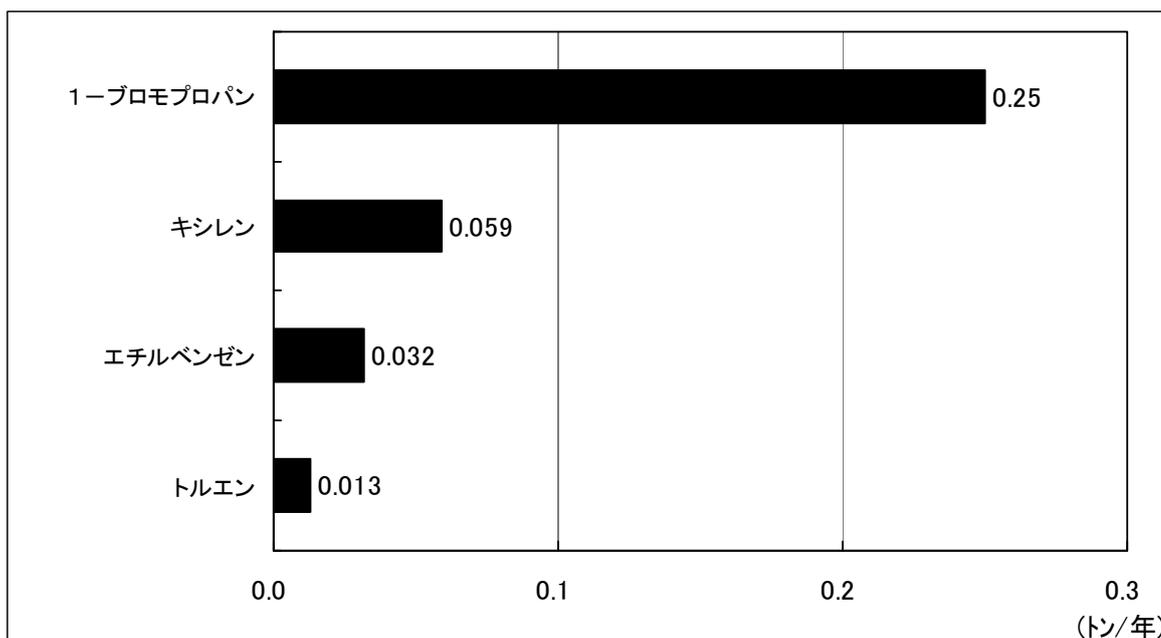


図4-5 物質別管理目標（排出量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度の用途別の排出量は、図4-6のとおりでした。「溶剤・塗料など」が、当該業種の排出量全体の75.4%を占めていました。

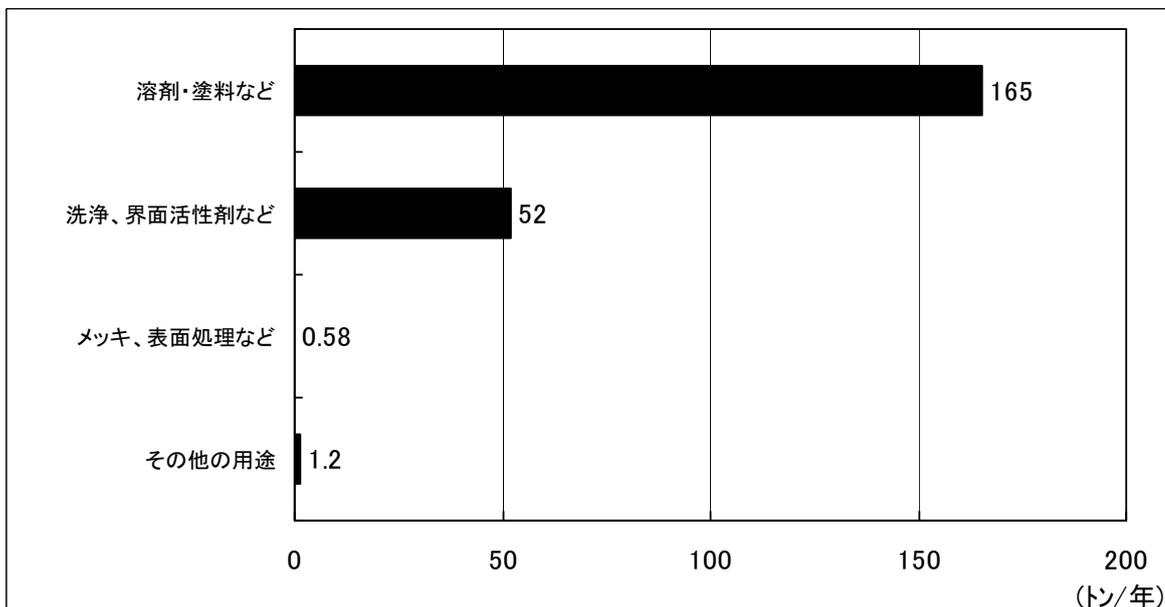


図4-6 用途別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図4-7のとおりです。「溶剤・塗料など」が、当該業種の削減目標全体の70.6%を占めています。

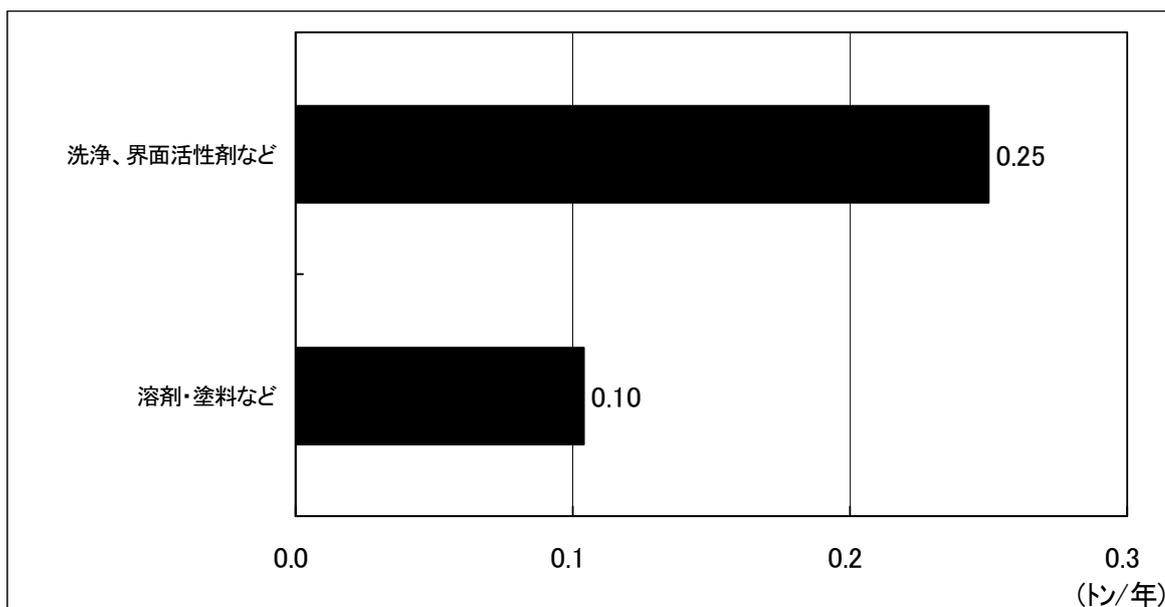


図4-7 用途別管理目標（排出量削減目標）

## (5) 一般機械器具製造業（排出量第5位）

### ア 排出量別

平成23年度の条例（化管法の届出対象外の事業所を除く。）の報告事業所は20事業所で、排出量別の事業所数は図5-1のとおりでした。排出量上位3事業所で、当該業種の排出量全体の39.7%を占めていました。

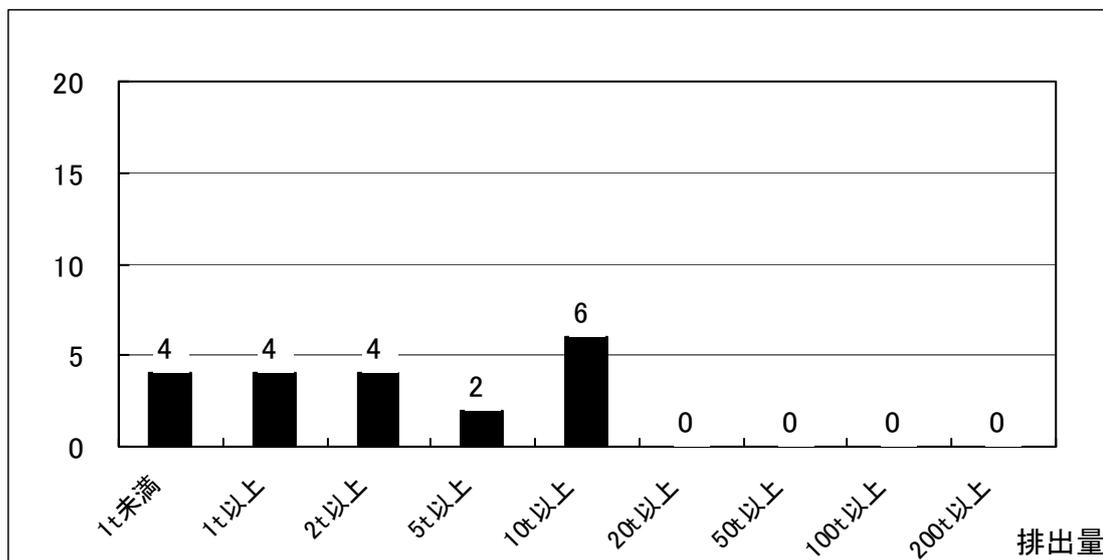


図5-1 排出量別事業所数

### イ 当該業種が占める割合

一般機械器具製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の排出量の2.9%を、管理目標（排出量削減目標）の0.8%を占めていました（図5-2、3）。

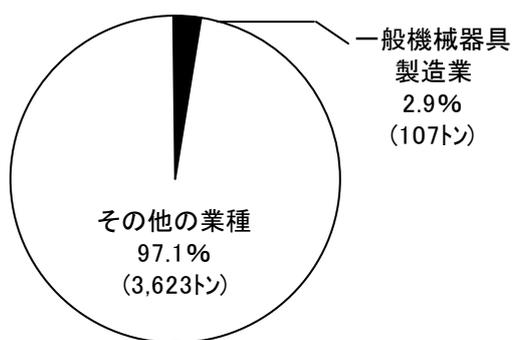


図5-2 排出量  
(平成22年度)

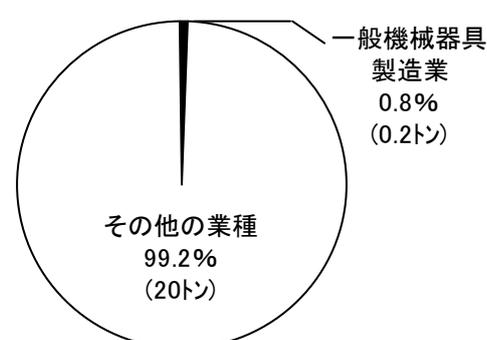


図5-3 排出量削減目標  
(平成23年度)

### ウ 当該業種の管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（排出量削減目標）は0.2トンで、平成22年度排出量107トンの0.19%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度に届出のあった物質数は8物質で、物質別の排出量は図5-3のとおりでした。排出量上位2物質で、当該業種の排出量全体の72.1%を占めていました。

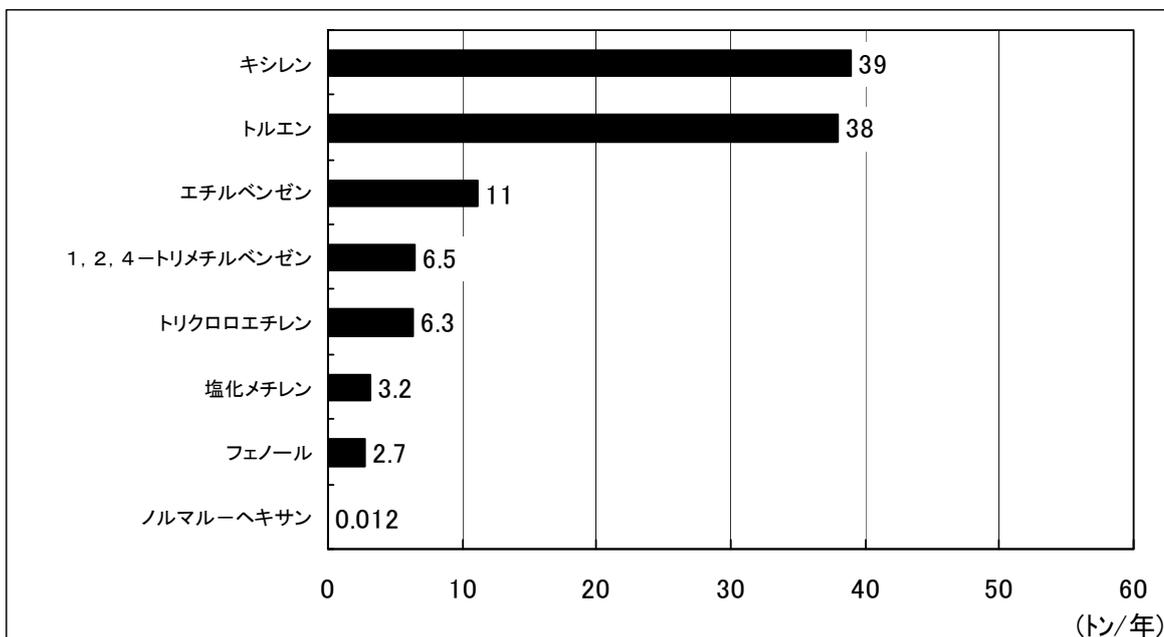


図5-3 物質別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図5-5のとおりです。削減目標上位2物質で、当該業種の削減目標全体の85.4%を占めています。

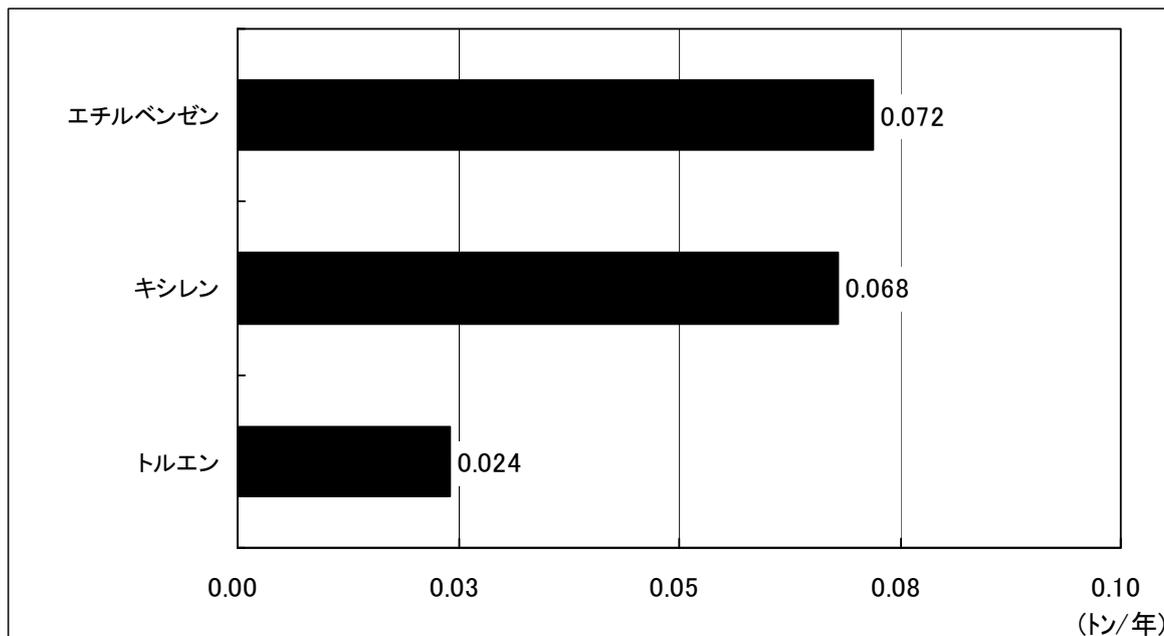


図4-5 物質別管理目標（排出量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 排出量の状況

平成22年度の用途別の排出量は、図5-6のとおりでした。「洗浄、界面活性剤など」が、当該業種の排出量全体の77.6%を占めていました。

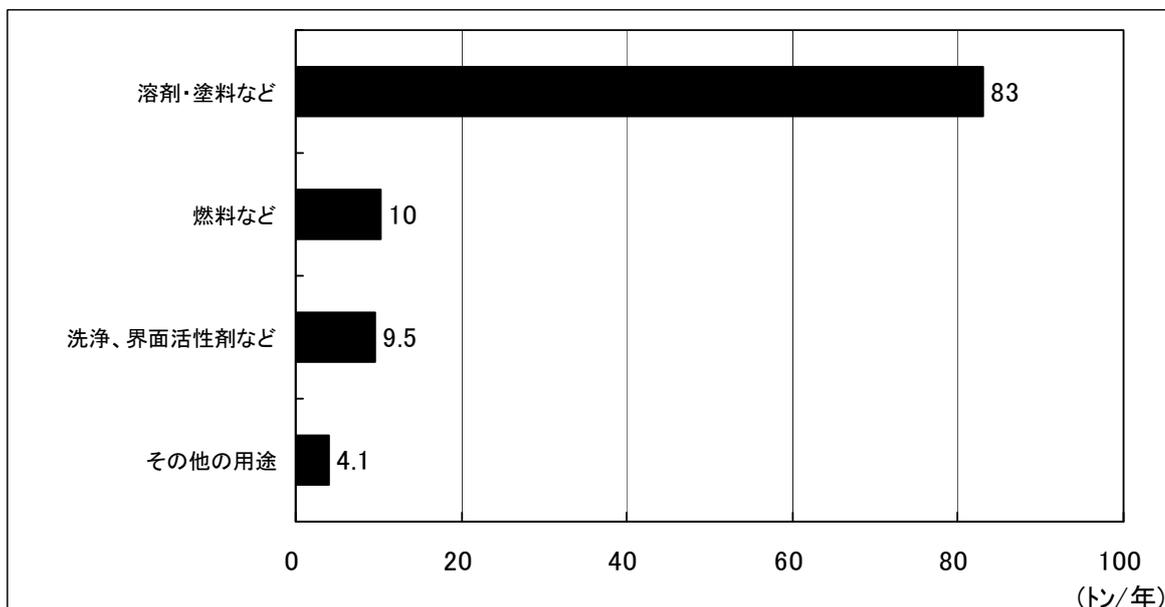


図5-6 用途別排出量

### (イ) 管理目標（排出量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（排出量削減目標）の設定状況は、図5-7のとおりです。「溶剤・塗料など」が、当該業種の削減目標全体の100%を占めています。

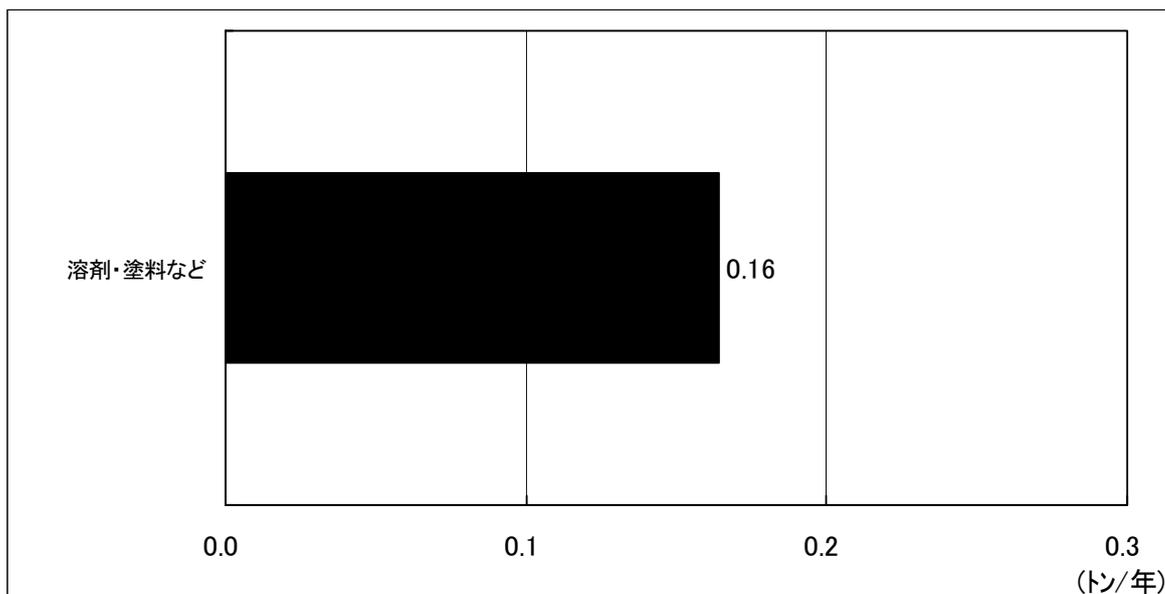


図5-7 用途別管理目標（排出量削減目標）

### 3 主要業種（製造業に限る）別の状況【平成22年度届出使用量上位5業種】

#### (1) 化学工業（使用量第1位）

##### ア 使用量別

平成23年度の条例の報告事業所は84事業所で、使用量別の事業所数は図6-1のとおりでした。使用量上位3事業所で、当該業種の使用量全体の56.5%を占めていました。

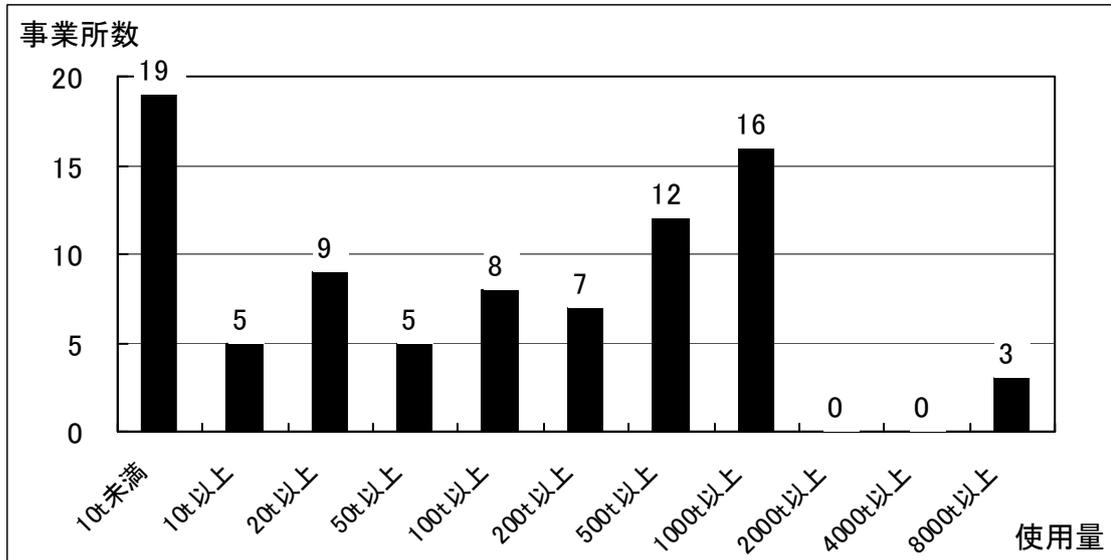


図6-1 使用量別事業所数

##### イ 当該業種が占める割合

化学工業は、条例に基づく報告を行った全事業所の使用量の24.6%を、管理目標（使用量削減目標）の73.4%を占めていました（図6-2、3）。

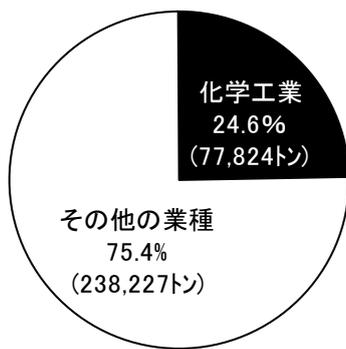


図6-2 使用量  
(平成22年度)

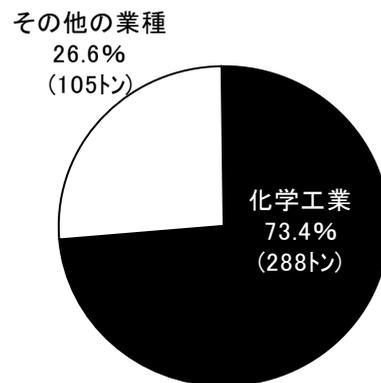


図6-3 使用量削減目標  
(平成23年度)

##### ウ 当該業種の管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（使用量削減目標）は288トンで、平成22年度使用量77,824トンの0.37%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度に報告のあった物質数は159物質で、物質別の使用量は図6-4のとおりでした。使用量上位3物質で、当該業種の使用量全体の30.3%を占めていましたが、その他の物質の種類も非常に多く、当該業種の使用量全体の42.7%を占めていました。

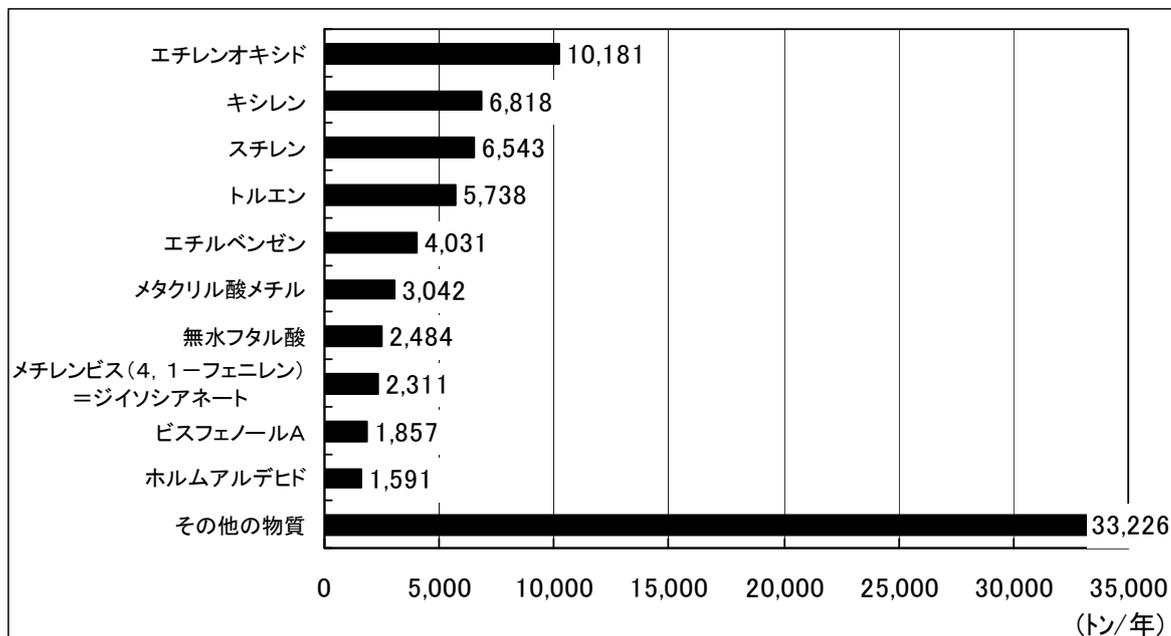


図6-4 物質別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図6-5のとおりです。削減目標上位2物質で、当該業種の削減目標全体の76.0%を占めています。

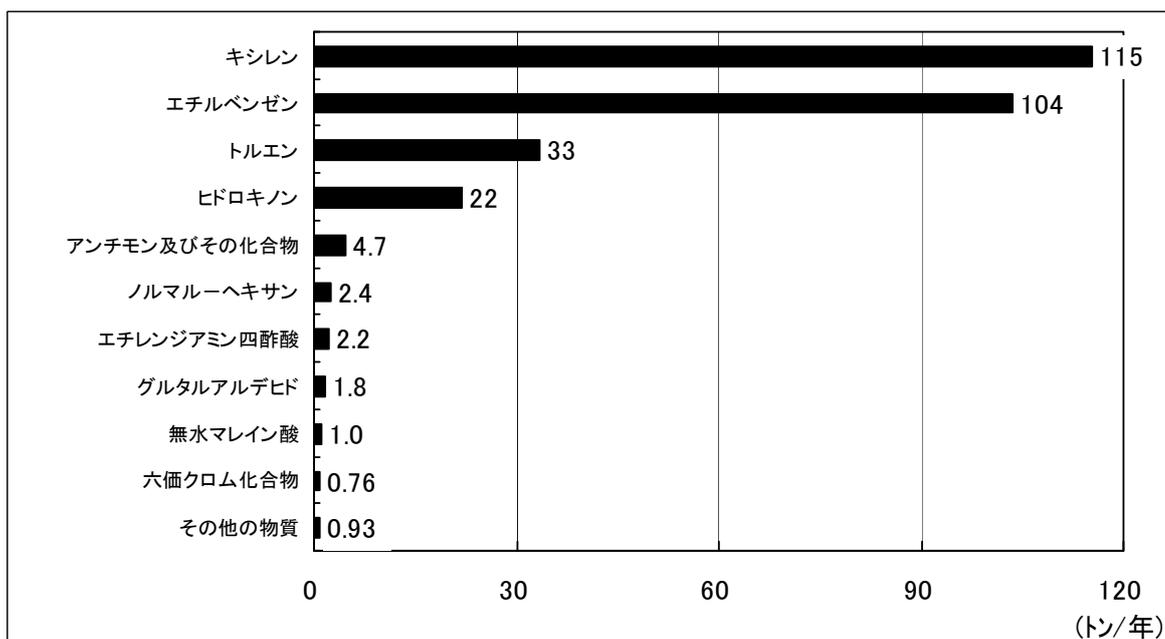


図6-5 物質別管理目標（使用量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度の用途別の使用量は、図6-6のとおりでした。「溶剤・塗料など」及び「高分子、ゴム、プラスチックなど」で、当該業種の使用量全体の61.9%を占めていました。

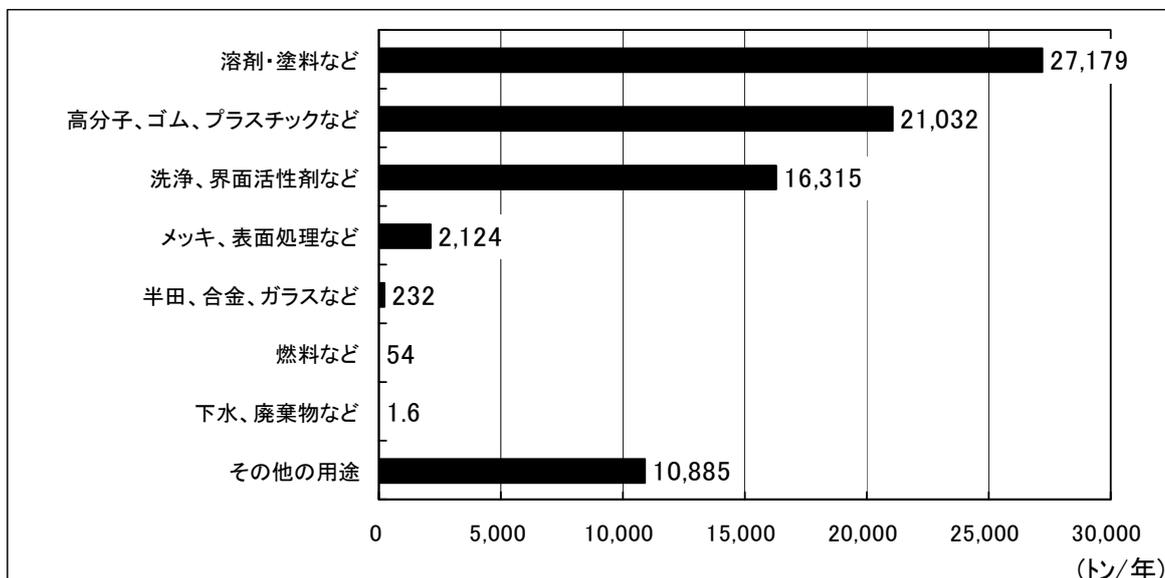


図6-6 用途別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図6-7のとおりです。最も削減目標が大きい「溶剤・塗料など」で、当該業種の削減目標全体の87.8%を占めています。

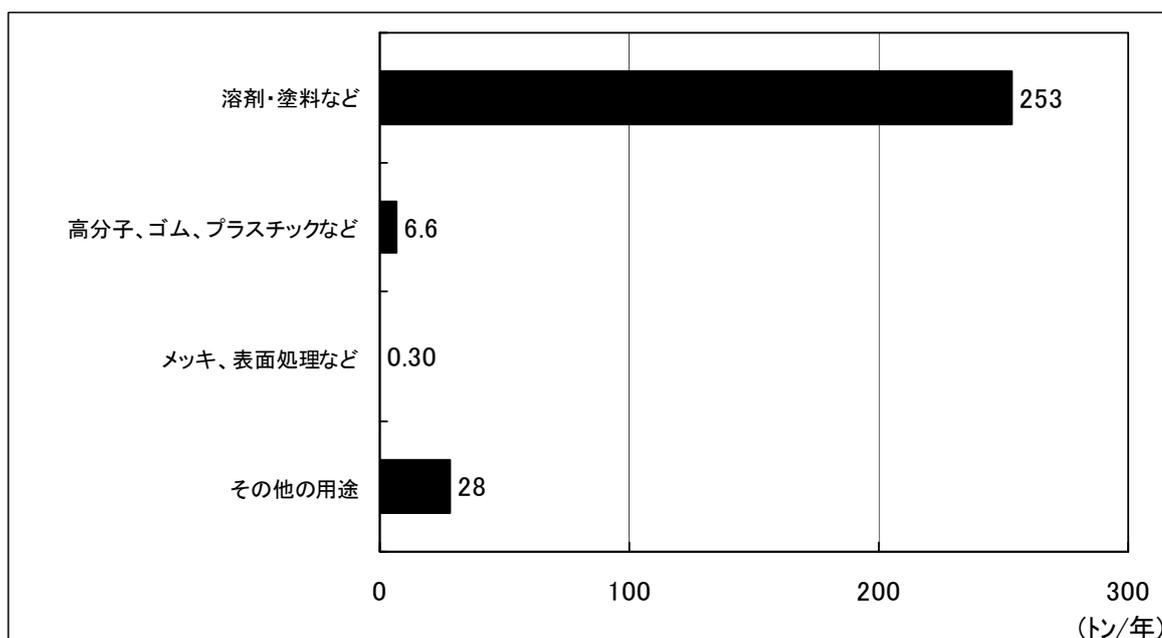


図6-7 用途別管理目標（使用量削減目標）

(2) プラスチック製品製造業（使用量第2位）

ア 使用量別

平成23年度の条例の報告事業所は24事業所で、使用量別の事業所数は図7-1のとおりでした。使用量上位1事業所で、当該業種の使用量全体の91.3%を占めていました。

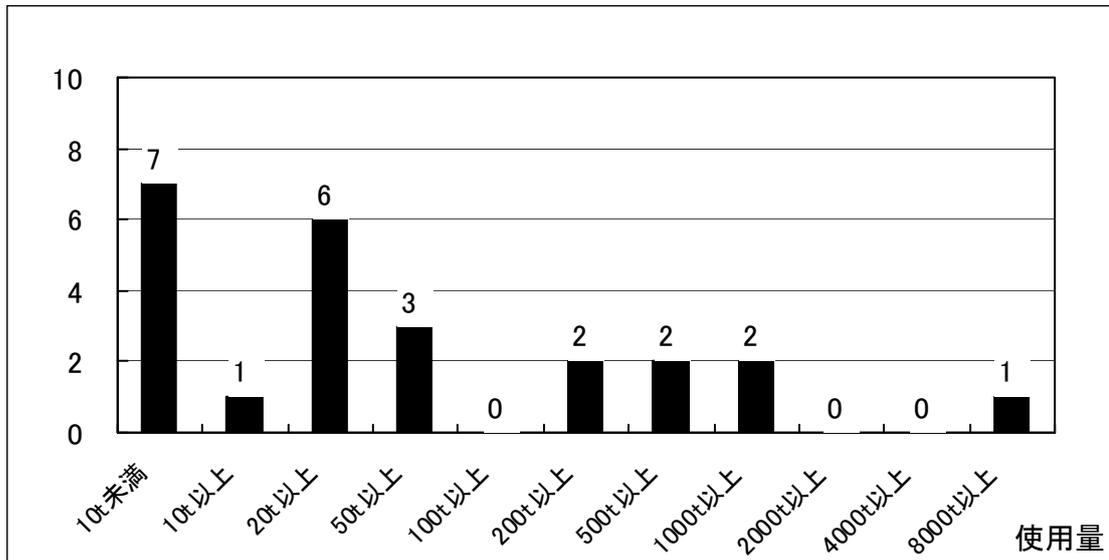


図7-1 使用量別事業所数

イ 当該業種が占める割合

プラスチック製品製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の使用量の18.1%を、管理目標（使用量削減目標）では全体の1.6%を占めていました（図7-2、3）。

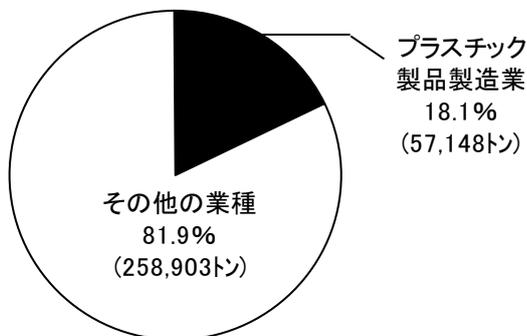


図7-2 使用量  
(平成22年度)

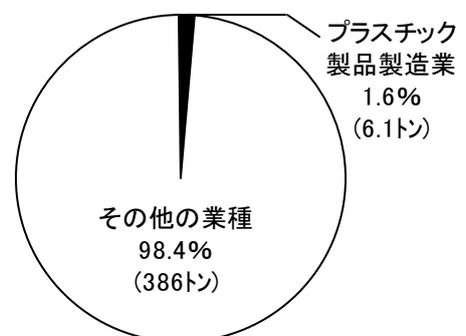


図7-3 使用量削減目標  
(平成23年度)

ウ 当該業種の管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（使用量削減目標）は6.1トンで、平成22年度使用量57,148トンの0.010%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度に報告のあった物質数は19物質で、物質別の使用量は図7-4のとおりでした。イプシロン-カプロラクタムが、当該業種の使用量全体の91.3%を占めていました。

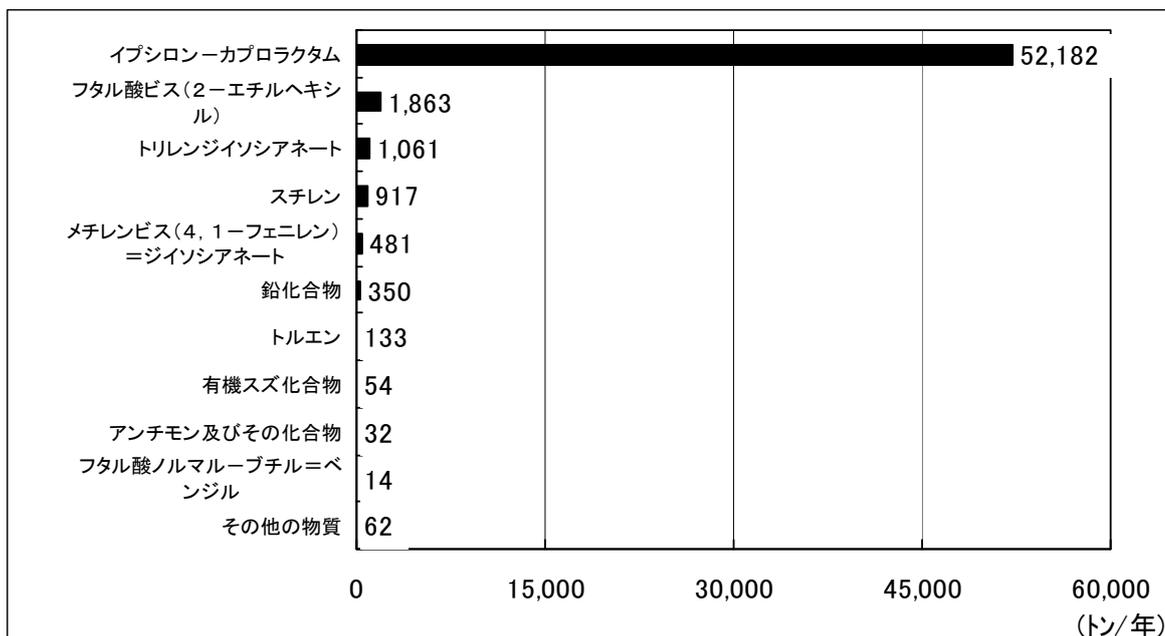


図7-4 物質別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図7-5のとおりです。削減目標が最も大きい「鉛及びその化合物」で、当該業種の削減目標全体の79.1%を占めています。

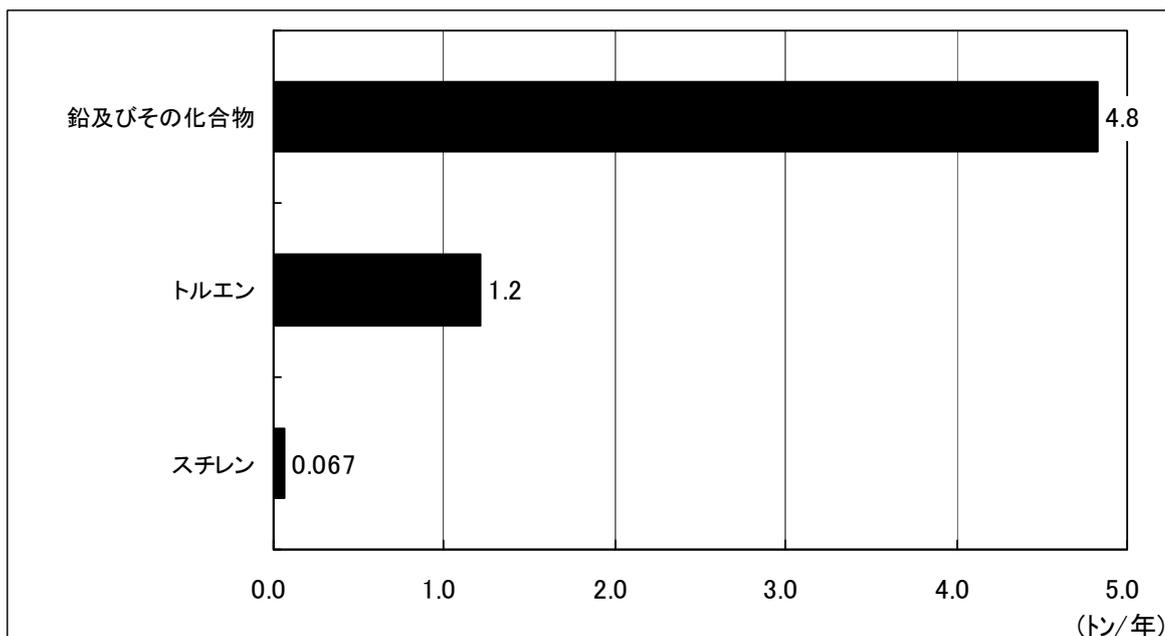


図7-5 物質別管理目標（使用量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度の用途別の使用量は、図7-6のとおりでした。「高分子、ゴム、プラスチックなど」が、当該業種の使用量全体の94.6%を占めていました。

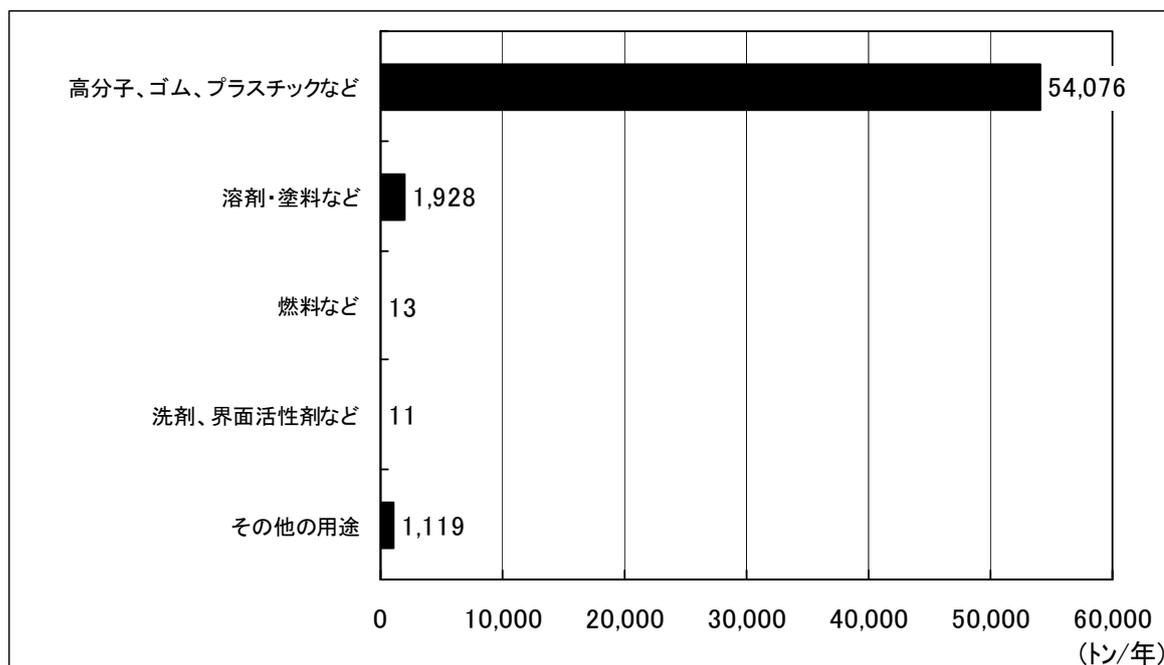


図7-6 用途別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図7-7のとおりです。削減目標が最も大きい「高分子、ゴム、プラスチックなど」が、当該業種の削減目標全体の79.1%を占めています。

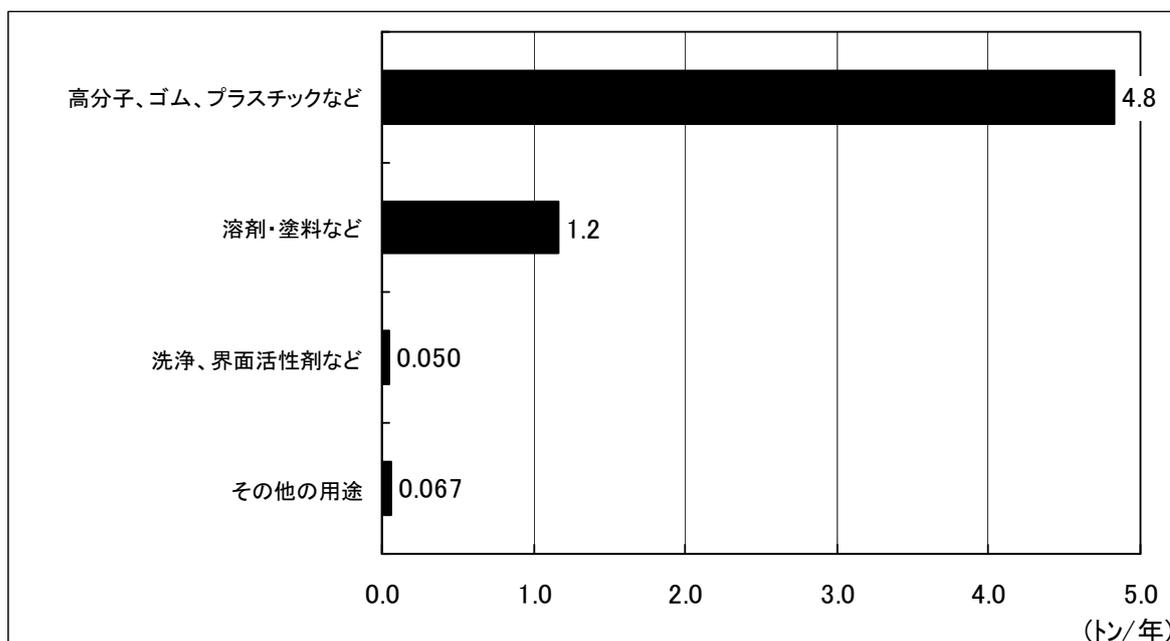


図7-7 用途別管理目標（使用量削減目標）

(3) 輸送用機械器具製造業（使用量第3位）

ア 使用量別

平成23年度の条例の報告事業所は62事業所で、使用量別の事業所数は図8-1のとおりでした。使用量上位1事業所で、当該業種の使用量全体の65.4%を占めていました。

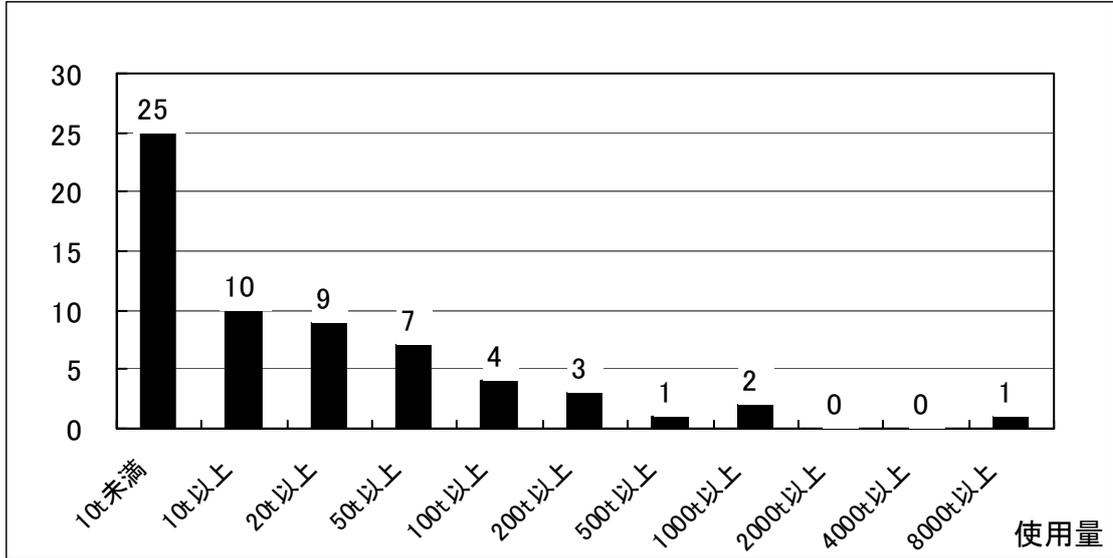


図8-1 使用量別事業所数

イ 当該業種が占める割合

輸送用機械器具製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の使用量の5.4%を占め、管理目標（使用量削減目標）の3.6%を占めていました（図8-2、3）。

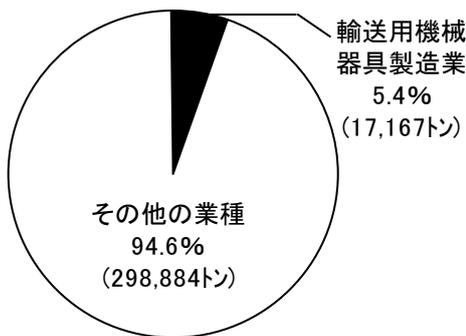


図8-2 使用量  
(平成22年度)

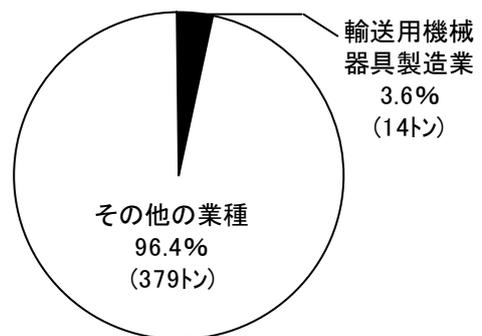


図8-3 使用量削減目標  
(平成23年度)

ウ 当該業種の管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（使用量削減目標）は14トンで、平成22年度使用量17,167トンの0.082%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度に報告のあった物質数は40物質で、物質別の使用量は図8-4のとおりでした。マンガン及びその化合物が、当該業種の使用量全体の64.3%を占めていました。

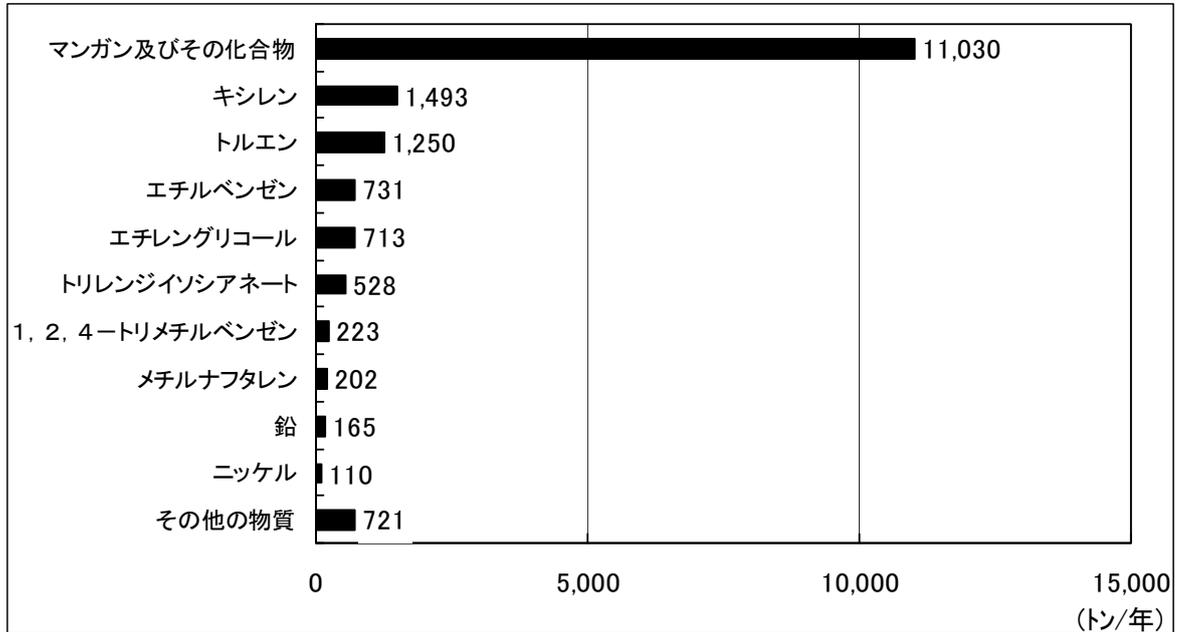


図8-4 物質別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成22年度の物質別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図8-5のとおりです。削減目標の上位3物質で当該業種の使用量削減目標全体の73.9%を占めています。

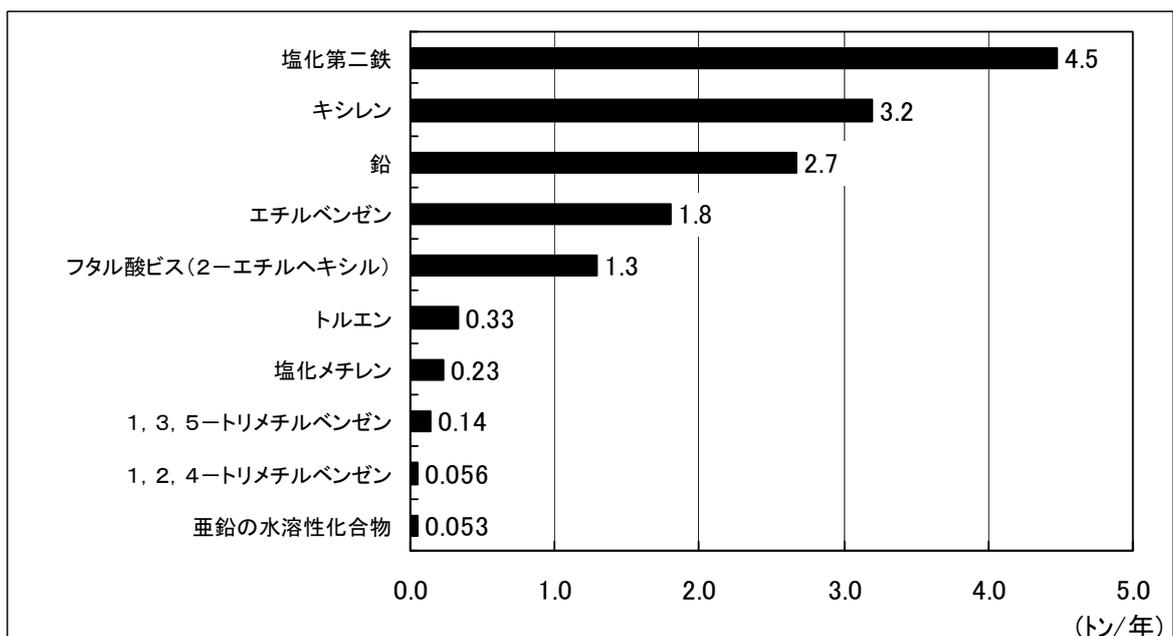


図8-5 物質別管理目標（使用量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度の用途別の使用量は、図8-6のとおりでした。「溶剤・塗料など」が、当該業種の使用量全体の17.1%を占めていましたが、「その他の用途」も非常に多く、当該業種の使用量全体の73.1%を占めていました。

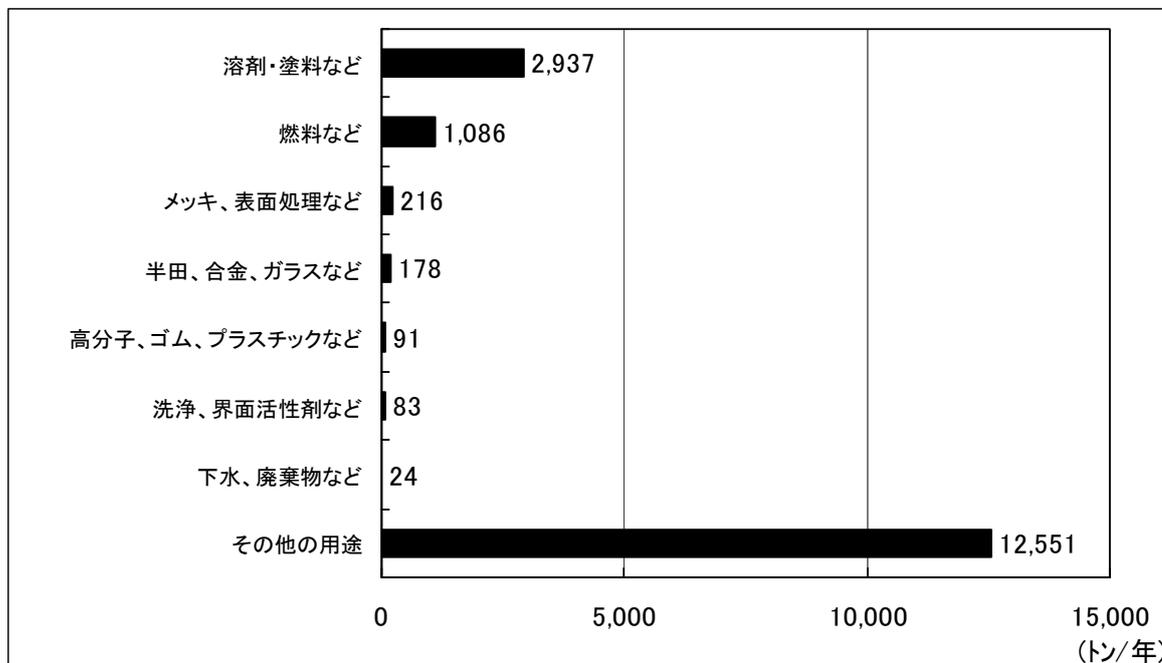


図8-6 用途別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図8-7のとおりです。削減目標上位3位で、当該業種の削減目標全体の88.5%を占めています。

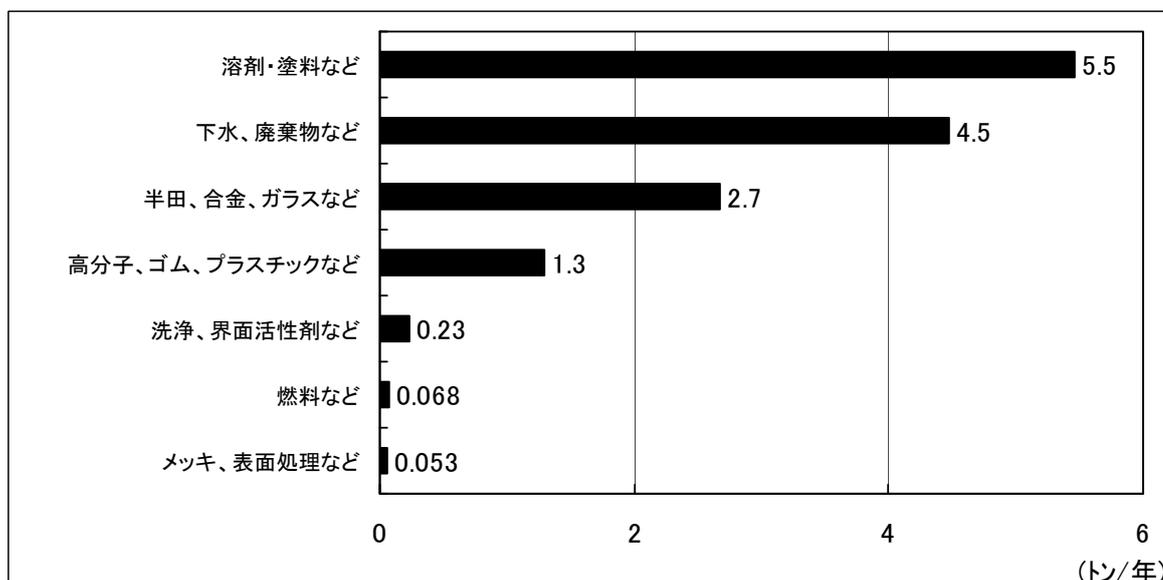


図8-7 用途別管理目標（使用量削減目標）

#### (4) 金属製品製造業（使用量第4位）

##### ア 使用量別

平成23年度の条例の報告事業所は33事業所で、使用量別の事業所数は図9-1のとおりでした。使用量上位1事業所で、当該業種の使用量全体の81.0%を占めていました。

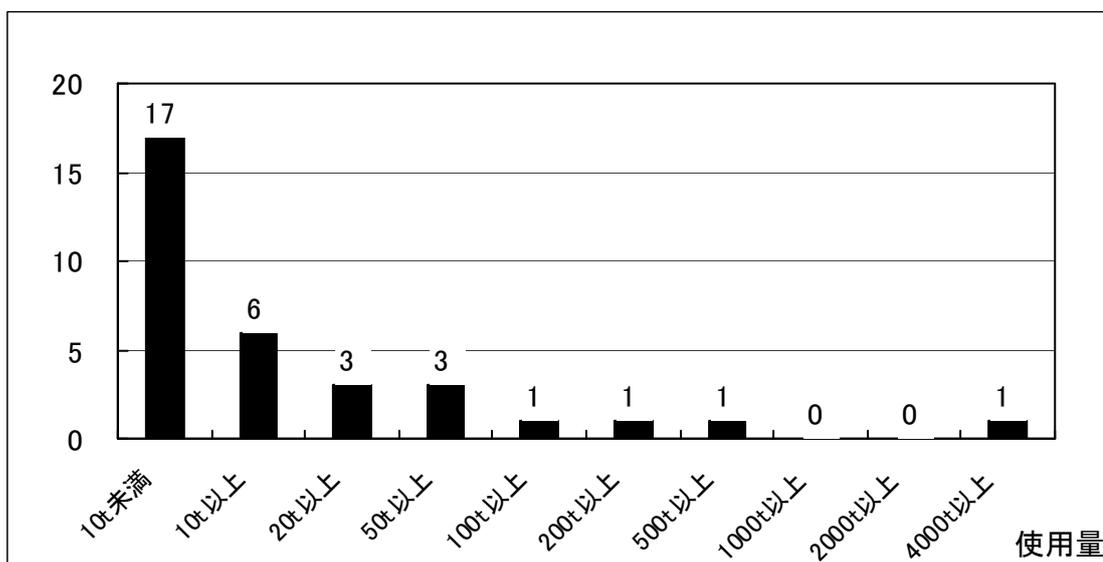


図9-1 使用量別事業所数

##### イ 当該業種が占める割合

金属製品製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の使用量の2.5%を、管理目標（使用量削減目標）の2.8%を占めていました（図9-2、3）。

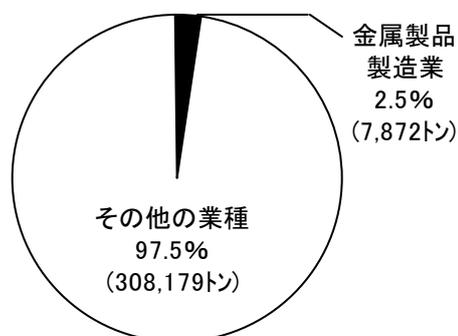


図9-2 使用量  
(平成22度)

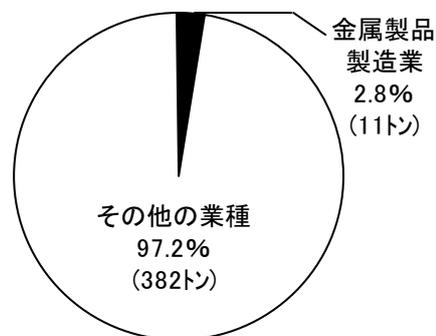


図9-3 使用量削減目標  
(平成23年度)

##### ウ 当該業種の管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（使用量削減目標）は11トンで、平成22年度使用量7,872トンの0.14%に当たります。

## エ 物質別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度に報告のあった物質数は23物質で、物質別の使用量は図9-4のとおりでした。使用量の最も多いニッケルは、当該業種の使用量全体の67.3%を占めていました。

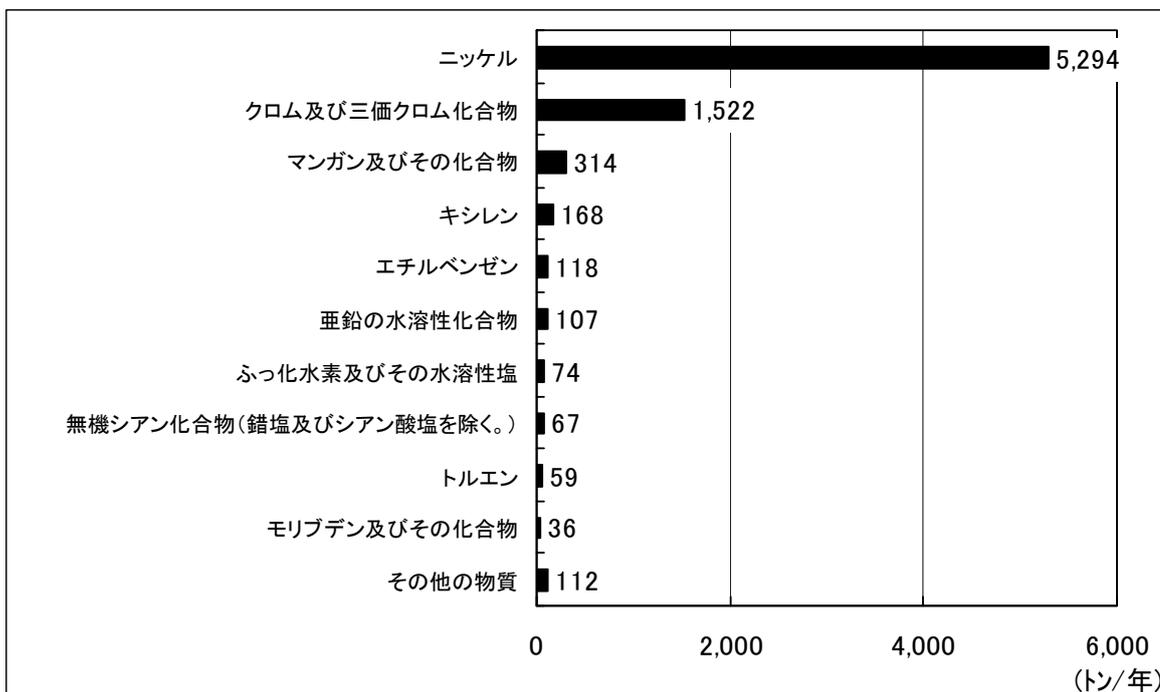


図9-4 物質別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の物質別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図9-5のとおりです。削減目標が最も大きい無機シアン化合物（錯塩及びシアン酸塩を除く。）が当該業種の削減目標全体の59.3%を占めています。

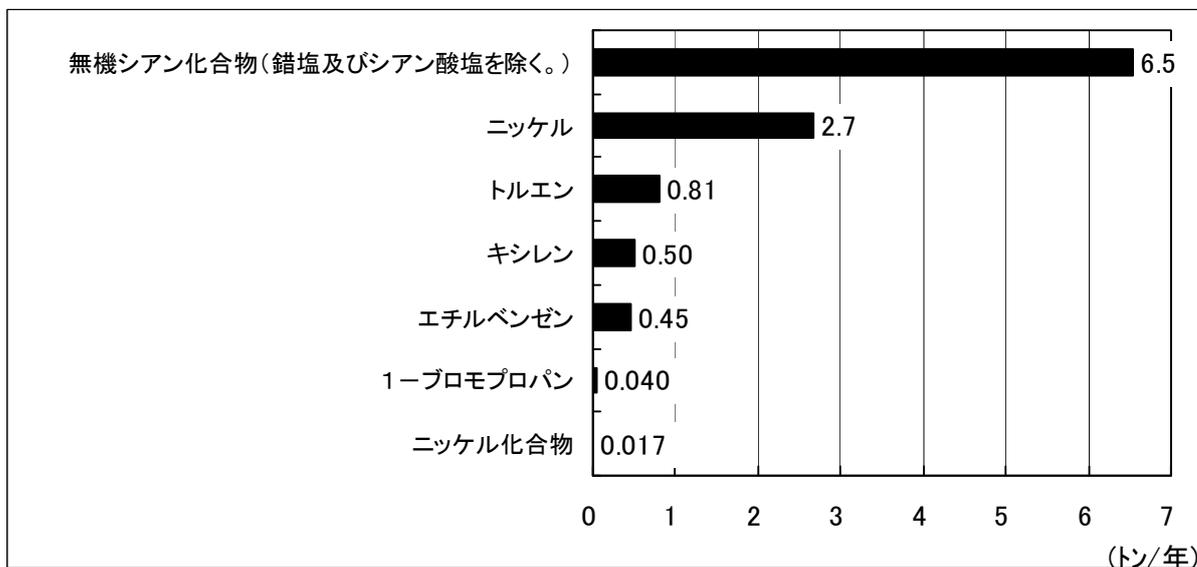


図9-5 物質別管理目標（使用量削減目標）

## オ 用途別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度の用途別の使用量は、図9-6のとおりでした。「半田、合金、ガラスなど」が、当該業種の使用量全体の89.5%を占めていました。

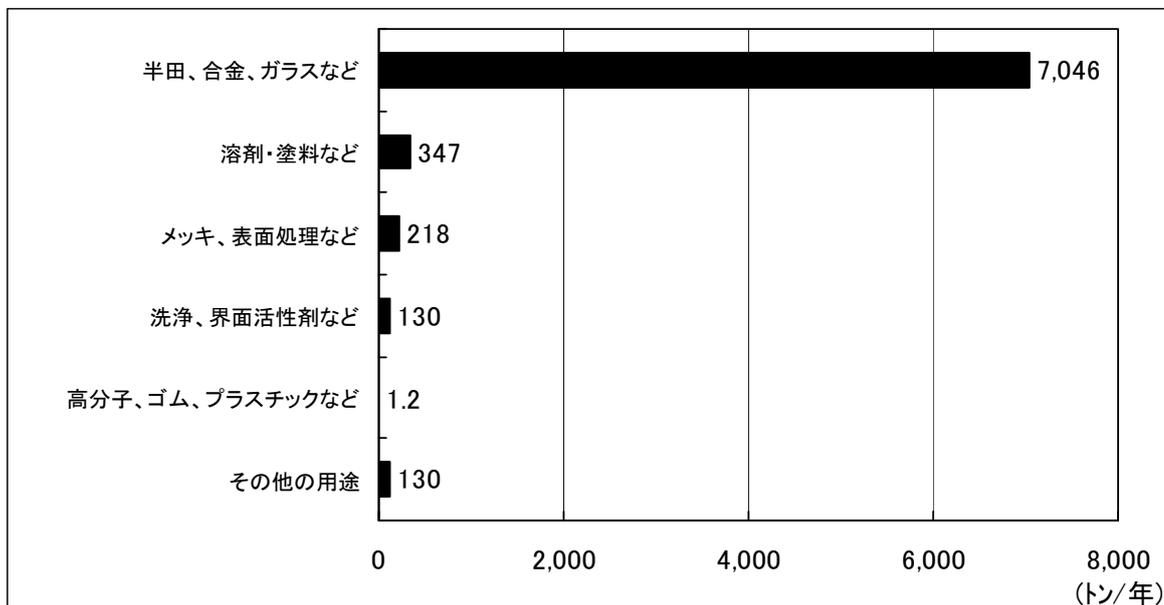


図9-6 用途別使用量

### (イ) 管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の用途別の管理目標（使用量削減目標）の設定状況は、図9-7のとおりです。削減目標が最も大きい「メッキ、表面処理など」が、当該業種の削減目標全体の59.4%を占めています。

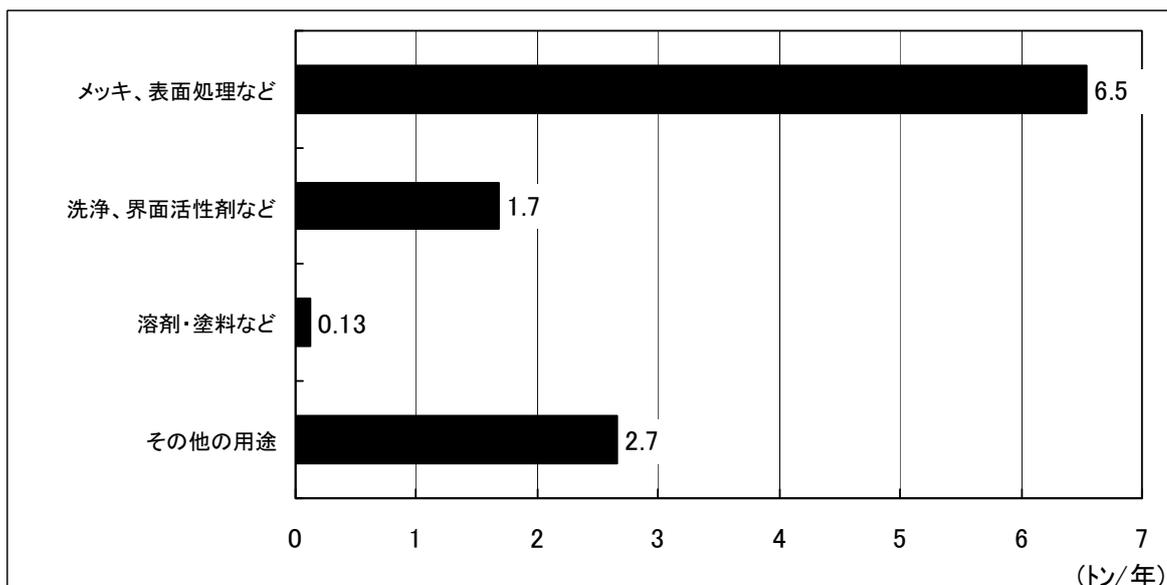


図9-7 用途別管理目標（使用量削減目標）

## (5) 非鉄金属製造業（使用量第5位）

### ア 使用量別

平成23年度の条例の報告事業所は20事業所で、使用量別の事業所数は図10-1のとおりでした。使用量上位3事業所で、当該業種の使用量全体の38.6%を占めていました。

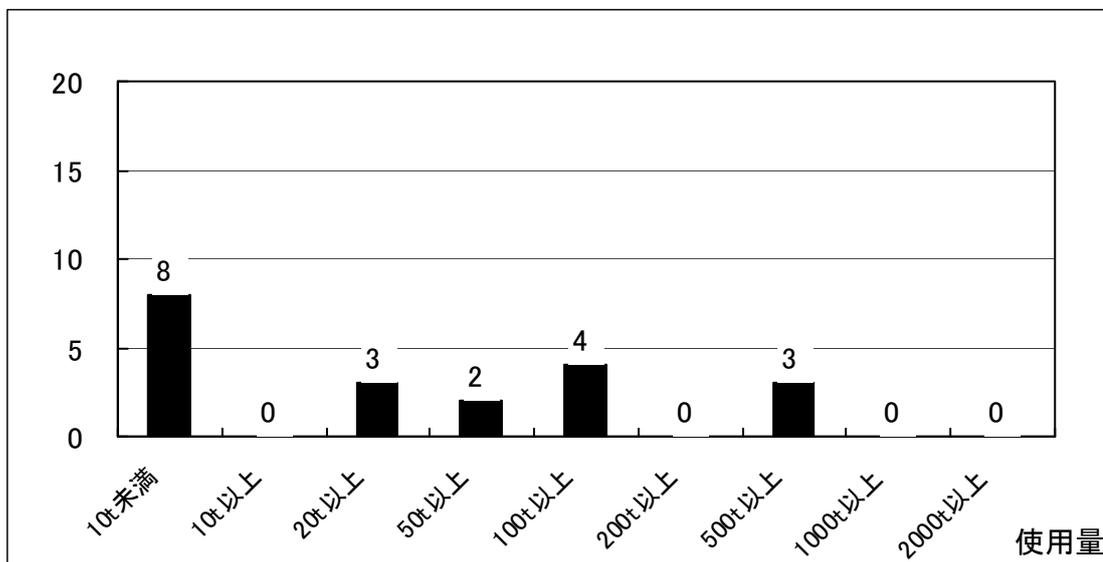


図10-1 使用量別事業所数

### イ 当該業種が占める割合

非鉄金属製造業は、条例に基づく報告を行った全事業所の使用量の1.1%を占めていました。なお、なお、管理目標（使用量削減目標）は0トン（現状維持）のため、全体に占める割合はありません。

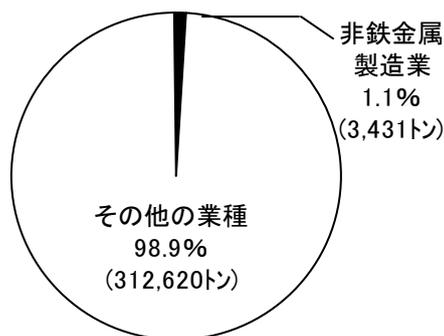


図10-2 使用量  
(平成22年度)

### ウ 当該業種の管理目標（使用量削減目標）の設定状況

平成23年度の管理目標（使用量削減目標）については、0トン（現状維持）となっています。

## エ 物質別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度に報告のあった物質数は23物質で、物質別の使用量は図10-4のとおりでした。使用量の最も多いニッケルは、当該業種の使用量全体の59.9%を占めていました。

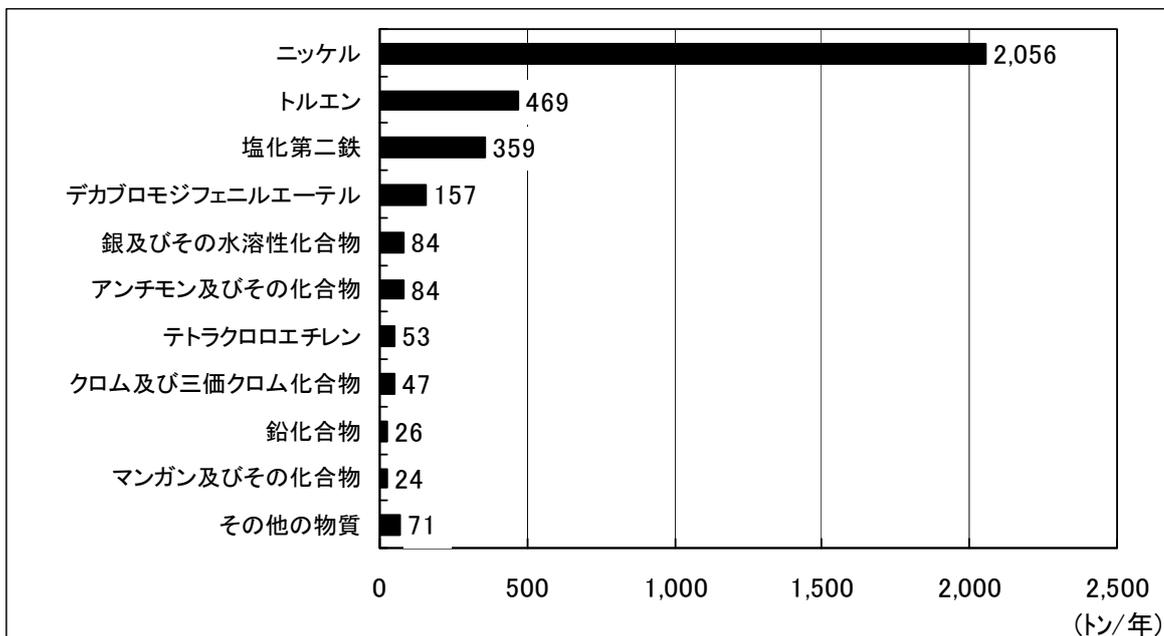


図10-3 物質別使用量

## オ 用途別の状況

### (7) 使用量の状況

平成22年度の用途別の使用量は、図10-6のとおりでした。使用量の最も大きかった「溶剤・塗料など」で、当該業種の使用量全体の49.1%を占めていました。

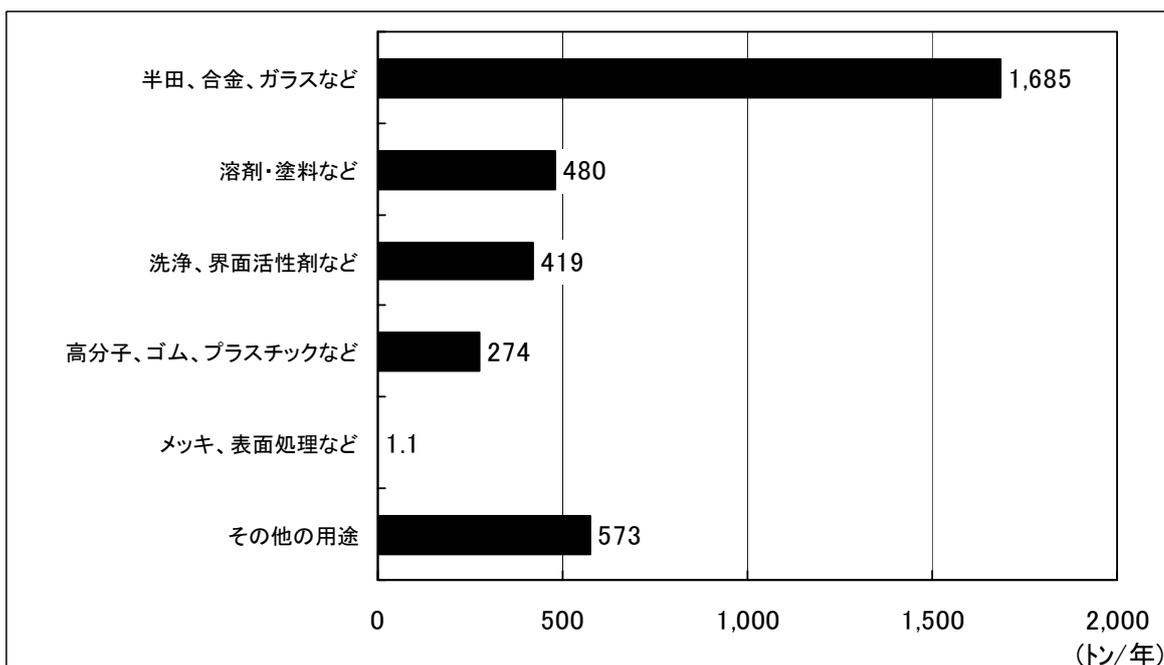


図10-4 用途別使用量

#### 4 主な化学物質の用途と有害性

今回の報告で、排出量が多かった化学物質の用途や有害性は次のとおりです。

物質名	主な用途	人に対する有害性
トルエン	合成原料（合成繊維、染料、火薬（TNT）、香料、有機顔料、可塑剤）、ガソリン成分、溶剤（塗料、インキ）	長期間にわたって体内に取り込んだ結果、運動障害や記憶障害などの神経系の障害のほか、腎臓、肝臓や血液への障害が認められます。シックハウス症候群との関連も疑われています。
キシレン	合成原料（テレフタル酸、染料、有機顔料、香料、可塑剤、医薬品）、ガソリン・灯油成分、溶剤（塗料、農薬）	高濃度で、眼やのどなどに対する刺激性や、中枢神経へ影響を与えることが報告されています。シックハウス症候群との関連も疑われています。
エチルベンゼン	合成原料（スチレン）、溶剤	シックハウス症候群との関係が疑われています。
塩化メチレン	洗浄剤（金属脱脂）、溶剤（重合用）、エアゾール噴射剤、インキ成分、ペイント剥離剤	高濃度で、吐き気、だるさ、めまい、しびれなどの神経系の症状が報告されています。動物実験でがんの発生率の増加が認められ、人に対する発がん性が疑われています。
ふっ化水素及びその水溶性塩	合成原料（フロン）、金属・ガラスの表面処理剤（エッチング剤）、半導体製造用エッチング剤	継続的に飲み水によって体内に取り込む場合、1.4mg/L以上で骨へのふっ素沈着の発生率や骨折リスクが増加すると報告されています。
テトラクロロエチレン	溶剤（ドライクリーニング、医薬品、香料、塗料）、洗浄剤（原毛用）、合成原料（代替フロン）	高濃度で長期間取り込み続けると、肝臓や腎臓への障害が認められ、低濃度では頭痛、めまい、眠気などの神経系への影響が認められています。動物実験で発がん性が認められ、人に対する発がん性が疑われています。
塩化メチル	合成原料（シリコーン樹脂、ブチルゴム）、溶剤（医薬品製造用、農薬製造用）、発泡剤（発泡ポリスチレン用）	変異原性試験で陽性を示す結果が報告されています。
1,3,5-トリメチルベンゼン	合成原料（染料、紫外線安定剤、医薬品）、ガソリン成分、溶剤	動物実験で眼や皮膚、呼吸器に対して刺激性があるとされています。
スチレン	合成樹脂原料（ポリスチレン樹脂、合成ゴム、AS樹脂、ABS樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、イオン交換樹脂）	変異原性の作用の仕組み及び人で染色体異常が観察されていることなどから、人への発がん性が疑われています。シックハウス症候群との関連も疑われています。
トリクロロエチレン	溶剤（染料、生ゴム、硫黄、ピッチ、塗料）、洗浄剤（脱脂、原毛用）、合成原料（代替フロン）、農薬（殺虫剤）	高濃度で長期間取り込み続けると、肝臓や腎臓への障害が認められることがあり、低濃度では頭痛、めまい、眠気などの神経系への影響が現れることがあります。動物実験でがんの発生率の増加が認められ、人に対する発がん性が疑われています。
ノルマル-ヘキサン	重合溶剤（合成樹脂）、溶剤（接着剤、塗料、インキ）	長期間取り込み続けた際の影響については、頭痛、四肢知覚異常、筋力低下などが報告されています。動物実験で胎児への体重低下が認められています。

出典：「PRTRデータを読み解くための市民ガイドブック」  
「化学物質ファクトシート 2012年度版」  
環境省環境保健部環境安全課